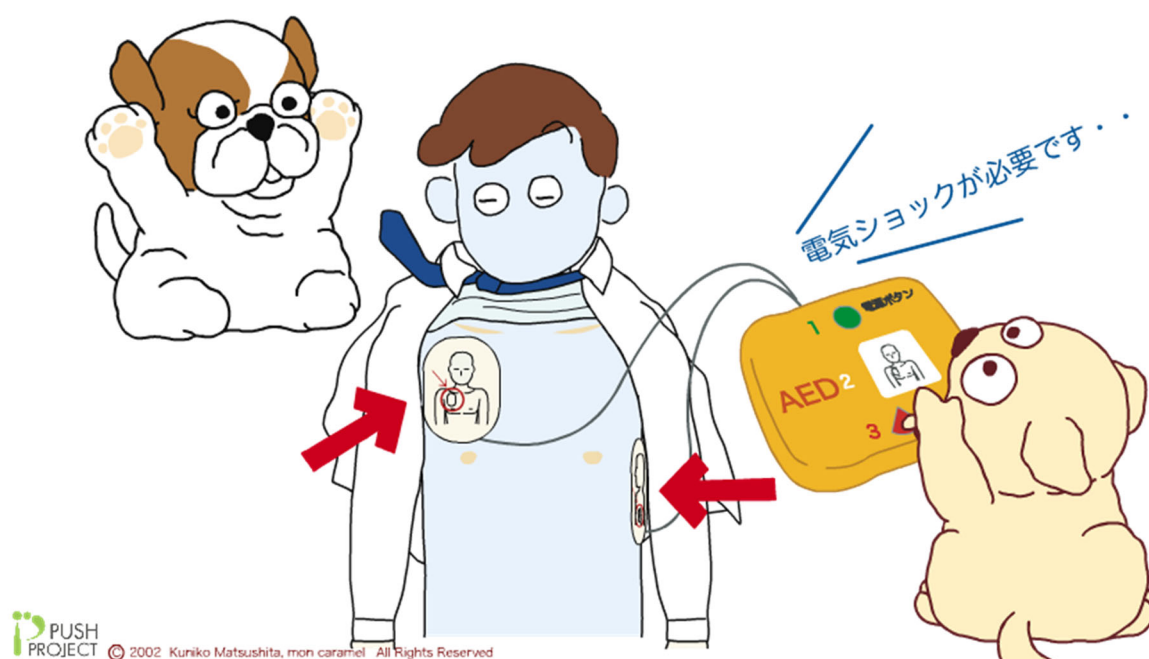


2025 年度

新入生 3000 名への救命救急講習

報告書



2025/05/09
救命救急講習 Project TEAM 作成

目 次

I. 背景	1
II. 救命救急講習の理念	1
III. 救命救急講習の目的	1
IV. 救命救急講習の実施方法	2-3
V. 結果	4-9
VI. まとめ	9-10
VII. 救命救急講習 Project Team メンバー	11
VIII. 謝辞	11
IX. 参考文献	11-12
X. 資料	
サポートスタッフ手順書	

I. 背景

心停止に陥った人を救命するためには、迅速な心肺蘇生の実施と自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator, AED) の使用が極めて重要である¹。京都大学構内には、附属病院を除いて 120 台以上の AED が設置されているが、残念ながら心停止による死亡事例が発生している。AED は学生・教職員が安全なキャンパスライフを送るために必要不可欠なものであるが、AED を単に設置するだけではなく AED を使える人材を育成しなければ意味がない。

京都大学では、2015 年度から国際高等教育院所掌のもと、医学研究科人間健康科学系専攻が中心となり、医学研究科予防医療学分野、初期診療・救急科・救急医学分野および、人間・環境学研究科からの協力を得て、新入生へのガイダンスの一環として全ての新入生約 3,000 人を対象に、胸骨圧迫と AED の使い方を指導する救命救急講習を始めた²。この講習では、人が倒れた場面、特に心停止場面に遭遇した際の救命処置のスキルを学生が習得することのみならず、命の尊さを考え、困っている人に手を差し伸べる人間性を育むことも目標にしている。この取組みは、本学の教育理念「京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。」にもとづくものである³。過去にこの講習を受けた学生を対象に調査したところ、学部 4 年間に於いて 25 人に 1 人が、人が倒れた現場に遭遇し、遭遇した学生の 2 人に 1 人は何らかの救命処置を行っていた⁴。さらに 2023 年 5 月には、講習を受講した当時 1 回生の学生 2 名が路上で倒れていた男性に遭遇し、救急隊員が到着するまでの間、学んだことを生かし適切な処置を行い、男性は無事に救命され社会復帰に至ったという事例があった⁵。これらの事実は、この講習がいかに重要であるかを示すものだと考えている。2025 年度に行った講習内容を以下に報告する。

II. 救命救急講習の理念

この講習では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与え、困っている人に手を差し伸べる人間性を育むことを目的としている。またサポートスタッフ教員のもと、新入生が同級生とコミュニケーションをとる機会を得ることで交友関係の足掛かりになるようにする。

III. 救命救急講習の目的

1. 心肺蘇生の実施や AED を使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに 119 番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AED を使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることができる。

Ⅳ. 救命救急講習の実施方法

1. 対象

2025 年度京都大学に入学した全学部生 2,918 人

2. 実施日時・場所

2025 年 4 月 2 日(水)、4 月 3 日(木)、4 月 4 日(金)

いずれも 11:00-12:00 と 14:00-15:00、1 日 2 回

吉田南 4 号館 4 共 11(1F)、4 共 30(3F)

3. 方法

1) 学生のグループ分け

2,918 人の新生を下記のように学部(学科)ごとに教室に分け、1 回の講習で約 500 名、1 日 2 回、全 6 回講習会を行った。

講習時間	教室	4/2(水)	4/3(木)	4/4(金)
11:00～ 12:00	4 共 11 (1F)	文学部 (225 人)	物理工学科 (240 人)	医学部(人間)・ 薬学部 (196 人)
	4 共 30 (3F)	経済学部 (250 人)	地球工学科・ 建築学科 (273 人)	理学部 (314 人)
14:00～ 15:00	4 共 11 (1F)	総合人間学部・ 教育学部 (192 人)	電気電子工学科・ 情報学科 (227 人)	医学部(医) (112 人)
	4 共 30 (3F)	法学部 (342 人)	工業化学科 (239 人)	農学部 (308 人)

4. 教育プログラム

1) 心肺蘇生トレーニングキット「あっぱくん[®]」(以下、あっぱくん[®])

あっぱくん[®](右写真)を学生 2 人で 1 個使用した。なお前日の 4 月 1 日(火)に、準備担当の教員があっぱくん[®]300 個をあらかじめ机の上に配置した。



2) 時間割

胸骨圧迫と AED の使い方を 1 人につき 1 体のトレーニングキットを用い、45 分間で多人数に対して指導を行う教育プログラムは、科学的検証を行い確立されている⁶。今回はこのプログラムに準じて講習を行った(資料:手順書参照)。

3) 教員の役割

① インストラクター

講習を運営しメインで指導を行うもの。各講習部屋につき 1 名、のべ 12 名を配置した。インストラクターは、あっぱくん[®]を使った講習を日ごろから実施し、心肺蘇生教育に慣れている学内教員とした。

② サブインストラクター

インストラクターが体調不良などで講習の運営を担えない場合、インストラクターとして指導および講習の運営を担うもの。

③ サポートスタッフ

学生 20 名につき約 1 名のサポートスタッフを配置した。サポートスタッフは、人間健康科学系専攻の全ての教員が担った。ただし人数が足りないため国際高等教育院の教員のうち、この講習に賛同してもらえる教員を募った。

④ 救急担当

初期診療・救急医学分野の教員は、講習中に体調不良を起こした学生の対応を行った。

⑤ 救護室／控室担当

講習中に体調不良を起こす学生を想定してあらかじめ救護室を準備した。体調不良を起こした学生がいた場合、救急部の医師と共にその対応を行った。

4) 手順書の作成と教員への事前説明

救命救急講習に携わる全ての教員に、この講習の理念、目的、方法を知ってもらうために手順書を作成した。救命救急講習の前月に行われた Faculty Development にて、全教員を対象に説明を行った。また教員の入れ替えがあり、初めてこの救命救急講習に参加する教員に理解を深めてもらうために、あっぱくん[®]を実際に使って講習の一部を体験してもらった。

V. 結果

1. 講習への参およびアンケート提出状況

	学部・学科	入学者数	アンケート提出数	教員数
4月2日(水)				
11:00～12:00	文学部	225	195	37
	経済学部	250	235	
14:00～15:00	総合人間学部	125	104	38
	教育学部	67	61	
	法学部	342	300	
4月3日(木)				
11:00～12:00	物理工学科	240	192	36
	地球工学科	189	166	
	建築学科	84	77	
14:00～15:00	電気電子工学科	134	128	33
	情報学科	93	85	
	工業化学科	239	204	
4月4日(金)				
11:00～12:00	医学部(人間健康)	111	105	36
	薬学部	85	82	
	理学部	314	281	
14:00～15:00	医学部(医学科)	112	109	32
	農学部	308	271	
合計		2,918	2,595	212

2. 講習の内容

1) 講習の様子

以下は、講習の流れについて、写真等を用いて概要を説明する。

メッセージ ビデオ	・ 講習を始める前、心停止で子どもを亡くされた親御さんたち、心停止から生還された方たち協力のもと作成した、約5分間のメッセージビデオを視聴し、なぜこの講習を受けてもらいたいのか、動機づけを行った。	
--------------	--	--

胸骨圧迫の練習	・ 胸骨圧迫を行う胸骨の下半分の位置を自分の体で確認。 ・ 両手を前に出して手を組み、胸骨圧迫の準備。 ・ 偶然隣に座った同級生と2人組になりあっぱくん®を使って胸骨圧迫の練習。交代しながら、止まってしまった心臓の代わりに、全身に血液を送り続けるように一生懸命胸骨圧迫の練習。 ・ 強く、速く、絶え間なく胸骨圧迫を続けるよう、隣の学生は応援。	  
AEDの使い方	・ 胸骨圧迫を続けながら、AEDのパッドを、あっぱくん®の胸に装着。 ・ 周囲の安全確認の後にショックボタンを押す。	 

まとめ	2023 年 4 月にこの講習を受けた学生が翌 5 月に、道端で心停止患者に遭遇して、救命処置を行い人命救助した事例を紹介した。 2024 年 2 月学内で心停止が発生し、AED が使用されたことを示し、学内でも心停止が起こることを知ってもらった。 - 学内外の AED の位置を検索したり、救命処置を復習ができたりするコンテンツがはいったスマホのアプリ(救命サポーターアプリ team ASUKA⁷⁾)を紹介した。	この講習を受けて人命救助をした先輩  ザッツ京大 ＞ 習ったことと実際の（心停止）現場は 本当と同じで、習った知識に頼りました。 ＞ 僕たちの行動がなかったら、おそらく助からなかったと聞いて本当にびっくりしました。行動して良かったと心から思いました。 学内でAEDが使用されています  部品交換のため 使用不可 【最寄りの AED 設置場所】 学生会館（G 棟北側） 医学部総合解剖センター（G 棟東側） 救命サポーターアプリ AED設置場所を把握しておきましょう！ 誰もがAEDを使って救える命を救う世の中、それを支えるのが救命サポーターteam ASUKAというアプリです。 このアプリを使用することで学内外のAEDの設置場所を知ることができます。また今日習った救命処置の仕方を復習できるコンテンツやゲームもあります。 インストールはこちらから→ https://aed-zaidan.jp/report/20220928.html  スマートフォンのGPS機能で現在地から最寄りのAED設置場所を検索可能！場所・道順・利用可能時間がわかる！もしもの時にご活用ください。
------------	---	---

2)講習中に体調不良を起こした学生

6 回の講習中 4 人が気分不良で体調不良を起こし、救急部の医師らによって準備していた車いすで救護室に運ばれ、経過観察された。いずれも自律神経失調症の症状（冷汗、体の一部が震える、立ち眩み、気分不良、顔面蒼白など）で、救護室で横になりしばらく休んだ後、自力歩行でガイダンスの部屋に戻ったり帰宅したりした。

3)オンデマンド配信

講習当日、体調が悪い場合は無理に参加しないように周知した。欠席した者は後日、録画した講習を視聴できるようにし、全ての学生に対して学習の機会を担保した。

3. アンケート結果

講習の最後に、アンケート回答用の QR コードを記載したチラシを配布して回答するように伝えた。対面講習に参加した学生および後日録画した講習を視聴した学生を合わせて、合計 2,595 人からアンケートの回答を得た(88.9%)。

1) 本学入学前における心停止(もしくはそれを疑う場面)遭遇経験

199 人(7.7%)の学生が、心停止(もしくはそれを疑う場面)の場面に遭遇していた。

2) 本学入学前の教育課程における、心肺蘇生および AED に関する教育歴

問 1. これまでに、心肺蘇生法や AED の使い方の講習会を受けたことがありますか？

	n=2,595	%
トレーニング人形を用い、 実技をともなう実習形式の授業	1,582	61.0
講義のみの授業	437	16.8
今回初めて心肺蘇生の授業を受けた	576	22.2

問 2. 今まで講習会を受けた方は、どこでその講習会を受けましたか？(重複回答)

	n=2,019	%
小学校	492	24.4
中学校	1,070	53.0
高等学校	1,358	67.3
運転免許取得時	35	1.7

3) 講習内容の理解度

問 3 心停止(もしくはそれを疑う事態)に遭遇した際、どのような救命行動をとればよいのか、今回の講習でその方法を理解することができましたか。

	n=2,595	%
よく理解できた	2,340	90.2
どちらかという理解できた	234	9.0
どちらとも言えない	19	0.7
どちらかという理解できなかった	1	0.0
理解できなかった	1	0.0

4) 今回の取り組みについて

問 4 入学前オリエンテーションで、今回のような心肺蘇生講習を行うことをどう思いますか。

	n=2,595	%
有意義だと思う	2,379	91.7
どちらかというと有意義だと思う	183	7.1
どちらとも言えない	27	1.0
どちらかというの意味がないと思う	4	0.2
意味がないと思う	2	0.1

問 5 これからも心肺蘇生の方法や AED の使い方を定期的に学びたいと思いますか？

	n=2,595	%
とても思う	1,638	63.1
どちらかという学びたいと思う	733	28.2
どちらとも言えない	184	7.1
どちらかという学びたいとは思わない	28	1.1
全く思わない	12	0.5

問 6 救命講習会を受けた感想(記載があった 1,108 名の自由記載のうち一部抜粋)

救命救急講習会に関して

- ・ AED の位置を確認しておこうと思った。
- ・ いざ自分が心停止などで救急の対処が必要な人を発見したらためらってる時間で人の命を失くす前に勇気を持って行動できるようにしたいと強く感じられた。
- ・ この講義で実際救われる命があると実感でき、とても有意義だった
- ・ これまで救急救命講習を受けたことはあったのですが、心臓突然死が年間七万人も起こっているということを知らず、驚きました。胸骨圧迫や AED の使用の大切さをよく理解することができたので、今後救急救命処置が必要な場に立ち会ったら、勇気ある行動を取りたいと思います。
- ・ なぜ大学で心肺蘇生の講習があるのだらうと思っていましたが、その重要性が今回の講習でよくわかりました。
- ・ 押す強さがわかってよかった
- ・ 緊急の場面に遭遇したときにためらわずに駆け寄って声を上げられる人になりたいと思います
- ・ 最初のメッセージビデオが心に残りました。勇気を出して頑張ります
- ・ 実戦形式は初めてで意外に体力を使うものだを知った。機会がないほうが望ましいが万一遭遇したらやってみようと思う
- ・ 心停止の場面に遭遇したら、傍観するのではなく、何か行動するよう心がけようと思いました。

- ・ 昔講習会を受けたことがあっても、今回久しぶりにやったら忘れていたので、定期的に復習するべきだと思った。
- ・ アニメのおかげで分かりやすく学べた。楽しかった。
- ・ 説明事項の重要度に序列をつけていたのが良かった。もし実際に現場に遭遇して頭が真っ白になってしまっても、最重要事項だけは意識して救命に臨めるだろう。
- ・ 主体性というより、自分ごととして考える力が要と思いました。
- ・ 実際に遭遇したときにしっかりできるか不安だが、周りの人と協力しながら救助する姿勢を忘れないでいきたい。
- ・ 思ったよりも力が必要で驚いた。協力が大事なのだったと思った。
- ・ 自分の身の回りにも起こりうることであり意識して生きたいと思います。
- ・ 忘れていたことを思い出すいい機会になった
- ・ 過去に学んでいた心肺蘇生方法を復習することができてとても良かったです。
- ・ 中学・高校で習った知識を確認できたのが良かったと思う。
- ・ 高校 1 年生で受けましたが、忘れかけていたので今回再確認できて本当によかったです。

同級生とのつながり

- ・ 胸骨圧迫のやり方や AED の使い方を学ぶ貴重な機会となったし、初めて同学部の人と顔を合わせることができたという点でも良かった。
- ・ 新しい友達を作る機会にもなり良いと思った。
- ・ 同級生とのコミュニケーションも図ることができて有意義であった
- ・ 動画がわかりやすく、ペアの同級生と話すきっかけが作れてよかったです。
- ・ 実際に心停止したときに役立つ知識を得ることができ、また二人組なので新しい友達を作ることでもできたのでとても良かったです
- ・ 同じ学部の人と喋ることができて楽しかった。
- ・ 緊急時に役立つ知識が得られた上に、新入生と顔を合わせる機会も得られて大変有意義だった。

その他

- ・ 良い雰囲気で学べたことが良かったと思う。
- ・ 先生方が盛り上げてくださりいい雰囲気に参加できてよかったです
- ・ 上回生相手にも定期的に開催して欲しい
- ・ 楽しく学べました！

Ⅶ. まとめ

新入生ガイダンスの一環として行っている救命救急講習も 2025 年で 11 年目を迎え、これまで約 27,000 人の学生が胸骨圧迫と AED の使い方を学んだ。学部を問わずすべての新入生を対象に継続して胸骨圧迫と AED の使い方の実技指導している大学は国内外をみても例がなく、本学の特徴的な取り組みの 1 つとなっている。

入学者 2,918 人のうち 2,595 人(88.9%)と高い回答割合を得ることができた。多くの学生が回答をしており、学生の関心の高さや講習(教育)内容への真剣な参加態度の表れかもしれない。講習を受けた学生 90.2%が、心停止(もしくはそれを疑う事態)に遭遇した際、どのような救命行動をとればいいのか「よく理解」できたと回答していた。また 91.7%の学生が心肺蘇生講習を「有意義だと思う」と回答しており、いずれも 2024 年度同様の結果であった。教育的な効果が安定して高い水準で維持されていると言える。講習を受けた学生(新入生にとっては先輩)が心停止患者を救命した実例、校内での AED 使用例を提示することで、学生は心停止を身近に起こるものと捉えられているのかもしれない。このように講習内容を学生にあわせて工夫することによりその内容が形骸化せず、初めて受講する学生にもわかりやすく、印象に残る講習となっていると考える。このことは、自由記載のコメント「なぜ大学で心肺蘇生の講習があるのだらうと思っていましたが、その重要性が今回の講習でよくわかりました」、「同級生とのコミュニケーションも図ることができて有意義であった」、「先生方が盛り上げてくださり、いい雰囲気に参加できてよかったです」などからもうかがい知ることができる。本講習が単なる一過性のイベントではなく、学生の心に残り、学生がいざということに行動を起こせる教育になるよう今後も継続していきたい。

これからも心肺蘇生の方法や AED の使い方を定期的に学びたいと思うかという質問に対しても、63.1%の学生が「とても思う」と回答しており 2024 年度(60.4%)とほぼ同等の結果であった。救命救急講習は 1 回受ければよいものではなく、心肺蘇生のスキルを忘れないために繰り返し学ぶ必要がある観点からもこの結果は注目に値する。自由記載では、「昔講習会を受けたことがあっても、今回久しぶりにやったら忘れていたので、定期的に復習するべきだと思った」「忘れていたことを思い出すいい機会になった」といった声が見られた。これらの意見は、知識や技術は時間とともに薄れていくものであり、繰り返し行う大切さを学生自身が実感していることを示している。今回の講習は、初めて心肺蘇生を学ぶ学生にとっては知識や技術を身につける貴重な機会であり、すでに過去に講習を受けたことがある学生にとっても、「忘れていたことを思い出す」「改めて大切さに気づく」といった気づきを得られる場となっていた。大学入学までの救命教育の経験の有無にかかわらず、それぞれの立場で新たな学びを得ていたことがうかがえる。

本学で実施しているこの講習で蓄積された運営ノウハウや教育資材、学生の反応を活かした講習内容は、他大学にとっても参考となる実践の一つになり得るのではないかと考えている。これまでの成果や工夫、講習の効果に関するエビデンスを積極的に発信し、他大学における実施を後押ししていきたい。「大学入学＝救命教育の再学習」という文化が全国に広がれば、心肺蘇生ができる人材をより多く社会に送り出すことができる。このことは日本全体の救命力の底上げにつながる重要な社会的意義を持つと考えている。本講習を通じて、学生たちが「ためらわずに行動する力」「人の命を思う心」「仲間と支え合う力」を育むことができるよう、今後も教育内容のさらなる充実と改善に努めていきたい。

VII. 救命救急講習メンバー

2025 年度新入生 3000 名へ救命救急講習の計画立案、運営、報告書作成、サポートスタッフ手順書作成は、以下に示す救命救急講習 Project TEAM メンバーおよび、人間健康科学系専攻の教員によって行った。

【救命救急講習(あっぱくん)Project TEAM】

チームリーダー	石見 拓	(医学研究科・予防医療学分野・教授)
サブリーダー	梁 楠	(医学研究科・人間健康科学系専攻・教授)
チームメンバー	大鶴 繁	(医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授)
チームメンバー	金丸敏幸	(国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	江川達郎	(人間・環境学研究科 認知・行動・健康科学講座・准教授)
チームメンバー	島本大也	(医学研究科・予防医療学分野・特定講師)
チームメンバー	谷間桃子	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
コーディネーター	西山知佳	(医学研究科・人間健康科学系専攻・准教授)

【救命救急講習(あっぱくん)WG メンバー】

田畑阿美	(医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
金橋 徹	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
廣野哲也	(医学研究科・人間健康科学系専攻・特定助教)
東 克暁	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
山内洋子	(医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)

VIII. 謝辞

今回の講習会を実施するにあたり、ご協力を下さりました国際高等教育院企画調整掛の皆様、人間健康科学系専攻教務掛の皆様、情報環境機構 情報環境支援センターの皆様には厚く御礼申し上げます。

IX. 参考文献

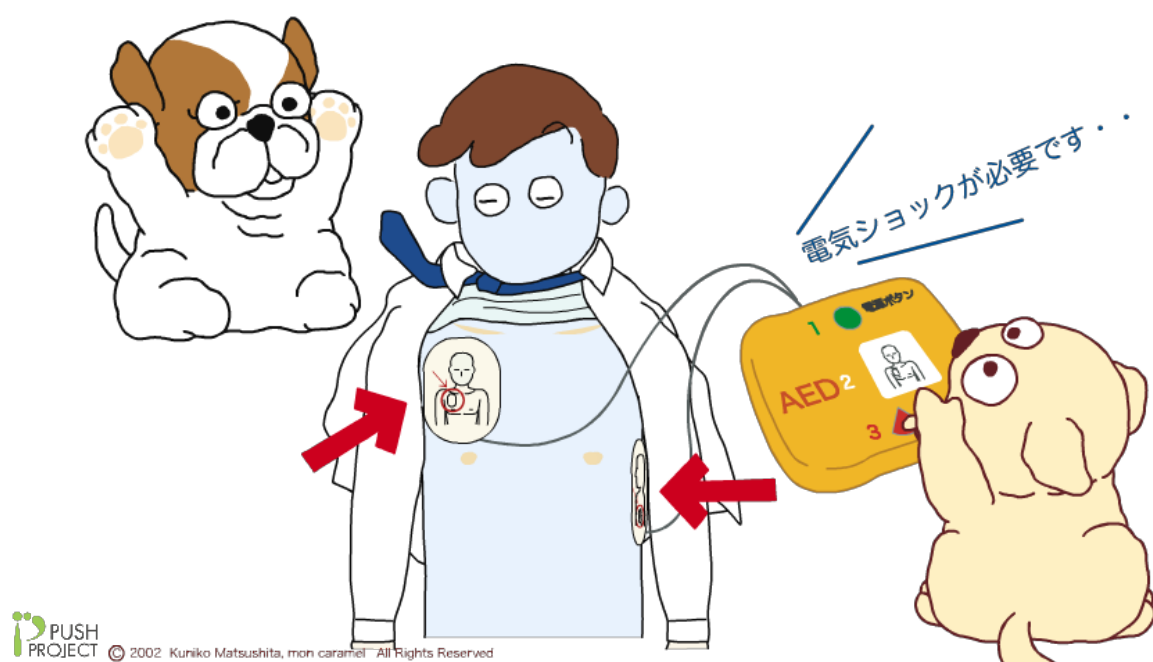
1. JRC 蘇生ガイドライン 2020、一般社団法人 日本蘇生協議会(監修)、医学書院、2021 年
2. 西山知佳、馬場正昭、黒木裕士、佐藤隆平、川村孝、小池薫、田中真介、内藤知佐子、石見拓. 国立総合大学全新入生を対象にした胸骨圧迫・AED 使用法教育. 日本臨床救急医学会誌, 2017.20;682-688
3. 京都大学. 基本理念. <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/operation/ideals/basic> (最終アクセス 2025 年 5 月 1 日)
4. Nishiyama C, Sato R, Baba M, Kuroki H, Kawamura T, Kiguchi T, Kobayashi D, Shimamoto T, Koike K, Tanaka S, Naito C, Iwami T. Actual resuscitation actions after the training of chest compression-only CPR and AED use among new university students. Resuscitation. 2019;141:63-68.

5. 京都大学. ザッツ京大. <https://www.thats.pr.kyoto-u.ac.jp/2023/12/27/14027/> (最終アクセス 2025 年 5 月 1 日)
6. Nishiyama C, Iwami T, Kitamura T, Ando M, Sakamoto T, Marukawa S, Kawamura T. Long-term retention of cardiopulmonary resuscitation skills after shortened chest compression-only cardiopulmonary resuscitation training and conventional cardiopulmonary resuscitation training: a randomized controlled trial. Acad Emerg Med. 2014; 21: 47–54.
7. 公益財団法人 日本 AED 財団. 救命サポーター「team AUSKA」. <https://aed-zaidan.jp/project/index.html> (最終アクセス 2025 年 5 月 1 日)

2025 年度

新入生 3000 名への救命救急講習

サポートスタッフ手順書



2025/03/17

Ver. 2

救命救急講習 Project TEAM 作成

目 次

I. 救命救急講習の理念	1
II. 救命救急講習の目的	1
III. 救命救急講習実施の概要	1
IV. 場所・日程・学生部屋割り	1-3
V. あっぱくん [®] について	3
VI. 役割	3
VII. 役割 3、6、7 の内容と当日の流れ	4-6
VIII. 体調不良、怪我など	7
IX. 地震・火災等避難方法	7
X. 4 月 1 日に着任される先生方および、その先生方をサポートして下さる先生へ	7
XI. 当日の緊急連絡先	7
XII. 救命救急講習時間割	8
XIII. サポートスタッフ担当表	9-11
XIV. 教室ごとのサポートスタッフ配置図	12-23
XV. 教室ごとのあっぱくん配置図	24-25
XVI. 吉田南 4 号館避難経路図	26

I. 救命救急講習の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習です。新入生は、2人1組のペアをつくって協力しあいながら、心肺蘇生の中でも一番大事な胸骨圧迫とAEDの使い方の手技を心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん®」を使って学びます。

この講習では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えることを目的にしています。また、1回生同士のペアや、サポートスタッフの教員と対話しながら心肺蘇生を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めていけるよう配慮したいと思います。

II. 救命救急講習の目的

1. 心肺蘇生を実施しAEDを使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに119番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AEDを使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとることができる。

III. 救命救急講習実施の概要

新入生ガイダンスの一貫として、学生は健康診断と救命救急講習を同日に受ける予定です。2025年4月2日(水)、4月3日(木)、4月4日(金)、各日午前と午後1時間の講習を行います。1回の講習で約500名を対象としていますが、500名を一堂に収容できる教室はありませんので2部屋に分けて行います。1日2回、全6回行うことで新入生約3000人に指導を行います。

IV. 場所・日程・学生部屋割り

1. 場所

吉田南4号館(地図番号92)

集合場所: 吉田南4共14(1F)

講習実施教室: 4共11(1F)および4共30(3F)



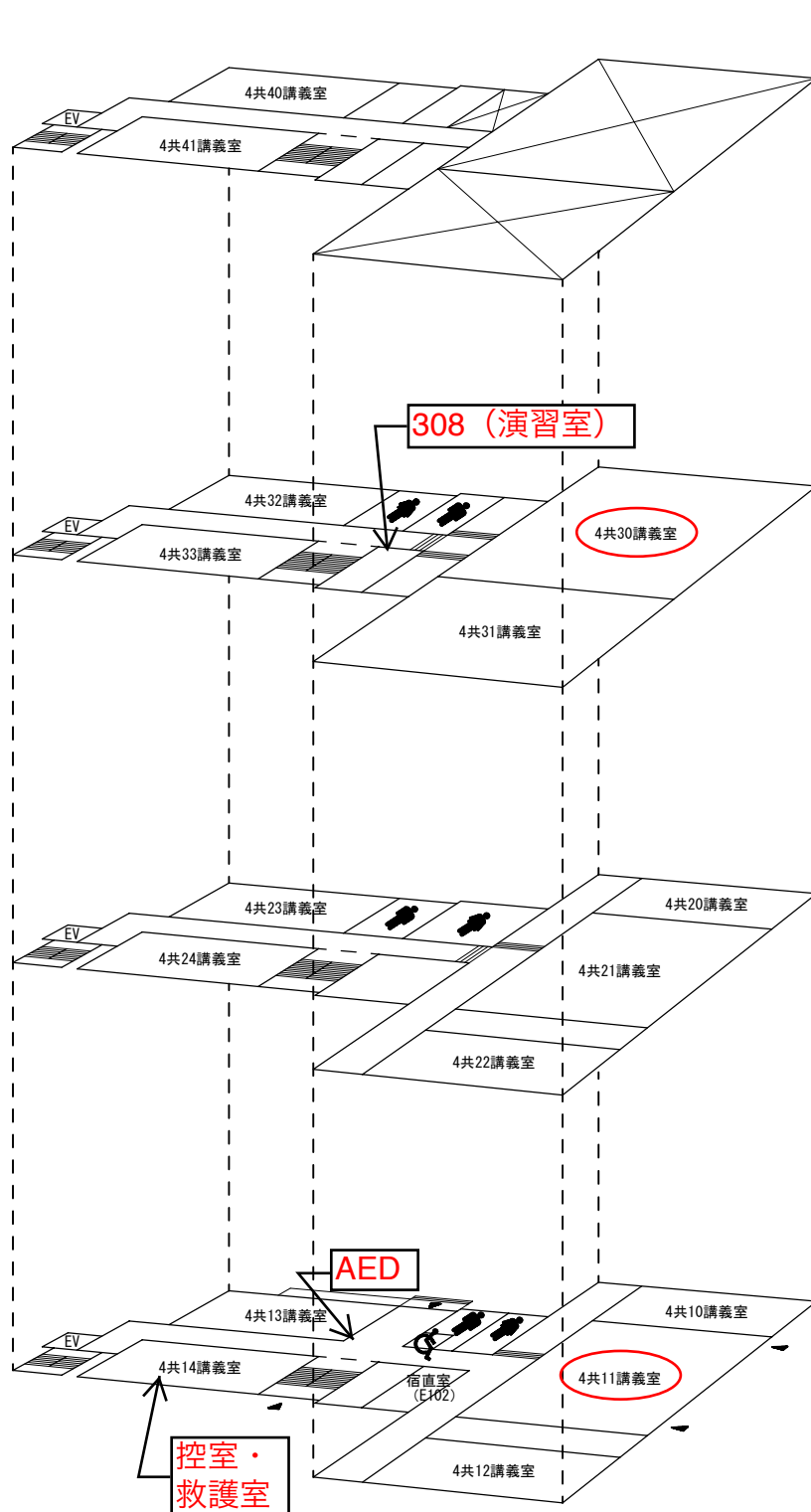
吉田南 4 号館

4 階

3 階

2 階

1 階



2. 日程・学生部屋割り

講習開始 20 分前に、集合場所の吉田南 4 共 14 の部屋へ集合して下さい。

集合時間	集合場所	講習時間	教室	4/2(水)	4/3(木)	4/4(金)
10:40	4 共 14 (1F)	11:00 ～ 12:00	4 共 11 (1F)	文学部 (220 人)	物理工学科 (235 人)	医学部(人間) 薬学部 (180 人)
			4 共 30 (3F)	経済学部 (240 人)	地球工学科 建築学科 (265 人)	理学部 (311 人)
13:40		14:00 ～ 15:00	4 共 11 (1F)	総合人間学部 教育学部 (180 人)	電気電子工学科 情報学科 (220 人)	医学部(医) (107 人)
			4 共 30 (3F)	法学部 (330 人)	工業化学科 (235 人)	農学部 (300 人)

V. あっぱくん®について

今回は心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん®」を 2 人で 1 個 (座席数が奇数のところについては、1 人 1 個の箇所もあり) 使います(右写真)。あっぱくん®は、あらかじめ机の上に置いています。



VI. 役割

1. インストラクター

講習の指導および運営を担う。

2. サブインストラクター

インストラクターが体調不良等で講習の運営を担えない場合、インストラクターをつとめる。

3. サポートスタッフ

指定された部屋の担当エリアにいる学生約 20 名を受け持ち、学生がインストラクターの指示に従って講習に参加できるようにサポートする。詳細は次ページの説明を参照のこと。

4. 救急部

担当教室は決めず、講習中 2 つの教室を往復し、体調不良者が出てないか確認する。

5. 救護室／控室

講習中、4 共 14 の部屋で待機する。万が一、体調不良の学生が出た場合は、救急部の教員と共に対応に当たる。

6. インストラクター補助

講習中、インストラクターのサポートを行う。

7. 誘導係

教室に入ってきた学生にマスク着用の協力依頼し、座席に誘導を行う。

VII. 役割 3、6、7 の内容と当日の流れ

役割3. サポートスタッフ

スライドに流れる映像を見た後、一旦映像を止めてみんなで実技を行う形式で講習は進みます。約 20 名の担当学生を受け持ち(担当表 page9-11 参照)、下記の内容を行って下さい。

- ①冒頭のメッセージビデオ視聴の際には、先頭列など空いている席に座っていただいて構いません。
- ②DVD の流れについて実技ができているかどうかを見守り、励ましの言葉をかけて下さい。
(例:時々DVD をちゃんと見ておらず、何をしたらいいかわからなくなっている)
- ③DVD と異なることをしていたら、声を掛けてサポートして下さい。
(例:AED のパッドを貼る位置が左右逆。あっぱくん[®]の置く向きが違う。)
- ④胸骨圧迫の練習の際、手の組み方、ひじが曲がっていないか、ハートの真ん中が押せているか確認して「いいね!」「その調子」「がんばれ!」などの声掛けをしてください。
- ⑤あっぱくん[®]から音が鳴らなくてもしっかり押せていると思われたら、「大丈夫。押せている」と言ってあげて下さい。机の高さと身長が合わず力が入りにくい学生がいます(特に小柄な学生)。できる範囲で胸骨圧迫の練習をしてもらったら結構です。
- ⑥DVD についていけない新生が入った場合、インストラクターに伝えて下さい。学生数が多い場合インストラクターは細部まで目が行き届かない場合があります。
- ⑦DVD の映像を見る時以外は、担当する新生に積極的に声を掛けて下さい。
- ⑧特に講習冒頭、気分が悪くなっていそうな学生がいないか様子を見て下さい。気分悪そうな学生がいたら、インストラクター補助の教員や巡回している救急部の医師に声をかけて下さい。
- ⑨講習中盤で、2 人一組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面があります。ここが先生方の一番必要なところです。左右、前後で 2 人一組になるように誘導して下さい。ペアになれない場合は、その学生とペアになって下さい。1 人ぼっちになると寂しいです。
- ⑩4/4(金)14:00-15:00 の講習のみ

担当した学生のあっぱくん[®]を集め、教室の後ろまたは前にある、あっぱくん[®]を片付ける段ボールへ入れて下さい。その後あっぱくん[®]を 3F308(演習室)まで運搬しますので、WG メンバーの先生の指示に従い一緒に運搬のご協力をお願いします。

時間		項目	場所・備考
10:40	13:40	控え室集合	4 共 14(1F)
10:40-10:50	13:40-13:50	説明	全体説明
10:50-11:00	13:50-14:00	各部屋に移動	4 共 11(1F)、4 共 30(3F)
11:00-12:00	14:00-15:00	救命救急講習	最終の講習以外は終了後、インストラクターの退室指示のもとに流れ解散。
	15:00-15:20	4/4(金)14:00-15:00 のみあっぱくん [®] 回収 および後片付け	WG の教員と一緒にあっぱくん [®] を 3F308(演習室)へ運搬し片付け。その後、流れ解散。

役割6.インストラクター補助

1)講習前

- ・ **午前の部は 10:30、午後の部は 13:30** に吉田南 4 共 14 の部屋にお越し下さい。
- ・ 担当教室の教員の出欠確認を行い、全体説明開始時間までにメンバーがそろっているか否か西山にお伝えください。

2)講習中

①インストラクターのサポート

- ・ 冒頭のメッセージビデオ上映の際には、全ての電気を消して下さい。
- ・ メッセージビデオが終わった後は、映像が見やすいように部屋の電気の調整をして下さい。
- ・ 胸骨圧迫や AED の説明の際には、インストラクターの声掛けに従って必要時インストラクターのサポートをして下さい。

②全体の見守り

- ・ 何か困っていることがないか見渡し、学生のサポートをして下さい。
- ・ 体調不良者が出た場合は、救急部の医師や救護室担当教員を呼びに行き対応して下さい。

3)講習後

- ・ アンケート等を記載した A4 の資料を配布して下さい。
- ・ 講習が終わり、学生が退室した後、次の講習用にあっぱくん[®]を定位置にセットして下さい (page24(4 共 11)または page25(4 共 30)の「あっぱくん配置」参照)。忘れ物がないかも一緒に確認してください。
- ・ 講習が終わったあと、インストラクターはサポートスタッフの教員へ部屋から退室するように声をかけます。サポートスタッフが退室した後に、1-2 分、生協の説明があります。なお説明を担当する生協学生スタッフ(黄色パーカー着用)が、講習終了時間を目安に部屋に入ってきて待機しています。黄色パーカー着用の生協職員の方や学生は、資料の配布やあっぱくん[®]を定位置に戻す作業、最終日のあっぱくん[®]運搬など手伝ってもらえますので、必要時に声をかけて下さい。
- ・ 4/4(金)14:00-15:00 の最終講義後、サポートスタッフの教員と協力してあっぱくん[®]を 3F308(演習室)へ運搬して片づけて下さい。

4)任務終了のタイミング

- ・ 次回の講習用にあっぱくん[®]を定位置にセットし、忘れ物がないかどうか確認できたら任務終了です。午前の講習はおおよそ 12:20、午後の講習はおおよそ 15:20 までに終わる見込みです。ただし最終日 4/4(金)午後は、あっぱくん[®]の片付けがあるので 15:30 ぐらいを見込んでいます。

役割7.誘導係

- ・ **午前の部は 10:30、午後の部は 13:30** に吉田南 4 共 14 の部屋にお越し下さい。マスクを持参していない学生用の予備マスクをお渡しします。

1)マスク

- ・ 担当教室に向かい、学生の着席誘導をして下さい。
- ・ マスクを着用していない学生がいたら、持参しているマスクを着用するように声を掛けて下さい。マスクをしてなくてもとりあえず入室させて構いません(入り口でマスクを渡したり、その場で着用させると入り口が混雑するため)。
- ・ 学生が入室した後でも構わないので、マスクをしていない学生にはマスク着用を促して下さい。もし持参していない場合は、予備マスクを渡して下さい。どうしてもマスクは嫌だという学生には、無理にさせる必要はありません。なお新入生には、新入生向けガイダンスの HP にて、以下のように事前にマスク着用をお願いしています

＜学生に HP で事前周知している内容:抜粋＞

- 1) 本講習では 1 つの教室に多くの学生が集まること、また京大病院で医療従事者としても働いている教員がインストラクターとして参加します。感染予防対策として館内ではマスク着用をお願いします。
- 2) 「心肺蘇生トレーニングキットあっぱくん[®]」を使います。会場入口での手指のアルコール消毒にご協力をお願いします。
- 3) 当日風邪の症状などの体調不良がある場合は、無理せず自宅で静養してください。ガイダンス終了後に PandA 上で録画された教材をアップロードし、胸骨圧迫と AED の使い方を学ぶ機会を設けます。視聴方法等の詳細は準備ができ次第、別途お知らせします。

2)座席

- ・ いずれの部屋も先頭列は可動式の机のため、安全性を考慮して使用しないようにしています。来た人から順でペアになってもらって、あっぱくん[®]の前に座ってもらうように誘導をしてください。
- ・ 特に、4 月 2 日(水)午後、4 月 4 日(金)午前、午後の 4 共 30 の部屋は、もし全員参加すると 300 人超えになるため、出来るだけ前から座るように声をかけて下さい。
- ・ 時々部屋の外の様子も見て下さい。部屋がわからず迷っている学生がいれば、中に入るように声をかけてあげて下さい。
- ・ 遅れて入室する学生がいます。講習中に空いている座席を探してうろうろしないように、前や奥から順に詰めて誘導してください。後方の扉の近くに空席を多めにしておいて下さい。
- ・ 学生が日にちを間違えて異なる学部の講習日に来てしまった場合、本人が講習を受けたいと希望すれば受けてもらって構いません。少しぐらい人が増えても全く問題ありません。

3)任務終了のタイミング

- ・ インストラクターや担当の教員が入ってきたら、任務終了です。講習中に、前の扉から学生が入ってこないように前の扉を閉めておいてください。お疲れ様でした。

VIII. 体調不良、怪我など

1. 4 共 14(1F)は、スタッフの控室兼、救命講習中の救護室にしており、応急手当物品、担架、車いすを準備しています。また控室には看護の教員 1 名が常に待機しています。
2. 救急部の医師が講習中、2 部屋を巡回しています。何かあれば救急部の医師へ声をかけて下さい。
3. 慣れない環境で緊張しながら講習を受けています。講習中、もし気分が悪い学生が出ましたら、無理に講習を継続させる必要はありません。座席で休むように伝えたり、その学生のみ講習を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導していただいても結構です。
4. 講習中盤に、2 人 1 組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面がありますが、ここで学生同士がぶつかる可能性があります。インストラクターが移動の向きを指示しますが、万が一けがをした場合は、その学生のみ講習を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導して下さい。

IX. 地震・火災等避難方法

万が一、講習中に地震・火災等の緊急事態が行った場合は、インストラクターの指示に従い各部屋の非常口(4 共 30 は東側(窓側))から避難するよう学生を誘導して下さい。各部屋の配置図に赤字で「非常口」と記載しております。「吉田南 4 号館避難経路図」を参照してください。

X. 4 月 1 日に着任される先生方および、その先生方をサポートして下さる先生へ

1. 4 月 1 日に着任される先生方へ

新入生を対象にした救命救急講習は、人間健康科学系専攻が全学部学生に提供する授業科目の 1 つとしてみなされており(4 単位分)、全教員が参加する重要な行事に位置付けられています。ご着任されたばかりで、慣れない環境で大変な時期だと思いますが、ご協力の程よろしくお願いします。「VII. 役割 3、6、7 の内容と当日の流れ」の「役割 3.サポートスタッフ」の項目を予めご一読下さい。

2. 4 月 1 日に着任される先生方をサポートして下さる先生方へ

新たに着任される先生と同じ講座や同じ分野の先生方は、新任の先生方へお声かけの上、吉田南 4 共までお越しください。また講習会場では、同じ教室担当の先生方も積極的に声をかけていただき、新任の先生方の不安を是非和らげて下さい。

もし、講習後に新任の先生から質問やご相談がありましたら、対応していただきますようお願いいたします。内容によっては、梁や西山へご連絡いただければ対応致します。

XI. 当日の緊急連絡先

2025年度 新入生への救命救急講習

場所: 吉田南4号館 (4共11、4共30)

日時: 2025年4月2日(水)～4日(木)11:00-12:00または14:00-15:00

目標

- 1. 命の大切さ、尊さを考える。
- 2. 第一救助者の重要性を理解する。
- 3. 胸骨圧迫とAEDの意義とその方法を理解する。



特に気に掛けていただきたい項目

	時刻			項目		お願い
導入	11:00	～	11:05			・あいさつ ・人間健康の教員紹介 ・写真撮影の説明
	11:05	～	11:16	メッセージビデオ		・動機づけのためのメッセージビデオをみます。 ・メッセージビデオ後、あっぱくんの蓋を開けてもらいます。蓋が開かない学生がいたらサポートをお願いします。
展開	11:16	～	11:19	第一話		手首で脈の確認をしますが、見つけれない学生がいたらサポートをお願いします。
	11:19	～	11:19			集中してない学生がいたら、続きのDVDを見るように促して下さい。
	11:19	～	11:21	第二話		声を出すことを恥しがるかもしめませんので、先生方も一緒に声を出して下さい。
	11:21	～	11:23			あっぱくんの胸(ハートの辺り)や、お腹辺りを見ているか確認してください。
	11:23	～	11:24			左右どちらが上でもいいので、手が組めているか確認してください。
	11:24	～	11:28			胸骨圧迫を1人30秒体験します。 30秒経ったら、合図を出しますのであっぱくんを隣の人に渡します。
	11:28	～	11:29			胸骨圧迫の交代の方法をDVDで見ます。
	11:29	～	11:36			2人1組になれているか確認してください。 30秒経ったら合図をしますので、学生同士声を掛けあって胸骨圧迫の交代をします。注)あっぱくんを移動させず、人が移動するようにして下さい。
	11:36	～	11:40	第三話		自分の体でAEDパットを貼る位置を確認しますが、逆になってないか確認してください。
	11:40	～	11:42			AEDの音声を聞いてみます。 模擬AEDの電気ショックボタンを押します。
	11:42	～	11:43			DVDをみます。
まとめ	11:43	～	12:00	まとめ		学内のAED設置場所の説明とまとめ

2025年度 新入生3000人救命救急講習サポートスタッフ配置

日程	2025/4/1(火)	2025/4/2(水)			
講習時間	10:00-12:00	11:00-12:00		14:00-15:00	
学部(学科)	準備	文学部	経済学部	総合人間学部 教育学部	法学部
部屋	梁 楠 西山知佳 山内洋子 田畑阿美 廣野哲也 金橋徹 東克暁 江川達郎 島本大也 金丸敏幸	4共11(1F)	4共30(3F)	4共11(1F)	4共30(3F)
インストラクター		江川 達郎	石見 拓	江川 達郎	島本 大也
サブインストラクター		谷間桃子・山内洋子	島本 大也	西山 知佳	谷間 桃子
カメラ係		金丸 敏幸			
救急部		陣上 直人			
救護室／控室		大滝 千文		阿久澤 智恵子	
全体統括 トラブル対応		梁 楠 ・ 西山 知佳		梁 楠	
学生人数		220	240	180	330
誘導係 (各部屋1名)		ドーリング 景子	伊藤 明良	山内 洋子	林 和寛
インストラクター補助 (WG)		東 克暁	廣野 哲也	田畑 阿美	金橋 徹
サポートスタッフ		① 石津 浩一	① 竹之内 沙弥香	① 高桑 徹也	① 千葉 理恵
		② 鳥井 美江	② 山下 正	② 御手洗 彰	② 古田 真里枝
		③ 初治 沙矢香	③ ANAGNOSTOU Despoina	③ 杉山 雅人(国際)	③ 大滝 千文
		④ 小島 諒介	④ 大嶋 正裕(国際)	④ 上野 智弘	④ 笹山 哲
		⑤ 阿久澤 智恵子	⑤ 常田 裕子	⑤ 任 和子	⑤ 錦織 桃子
		⑥ 清川 加奈子	⑥ 櫻木 実	⑥ 石川 恵子	⑥ 藤井 康友
		⑦ 岩井 直子	⑦ 塚原 信行(国際)	⑦ 嶋田 和貴	⑦ 緑川 光春
		⑧ 松尾 英将	⑧ 佐藤 龍一(国際)	⑧ 建内 宏重	⑧ 小方 智広
		⑨ 林 美穂子	⑨ 森瀬 譲二	⑨ 若村 智子	⑨ 伊藤 明良
		⑩ 谷口 匡史	⑩ 西中 瑤子		⑩ 森西 可菜子
		⑪ 伊吹 謙太郎	⑪ 入江 啓輔		⑪ 稲富 宏之
			⑫ 藤原 謙吾		⑫ 川島 啓嗣
					⑬ 常田 裕子
					⑭ 中尾 恵
					⑮ 草野 佑介
					⑯ 兼重 美希
					⑰ 櫻木 実
		※新任教員は斜体表示			

2025年度 新入生3000人救命救急講習サポートスタッフ配置

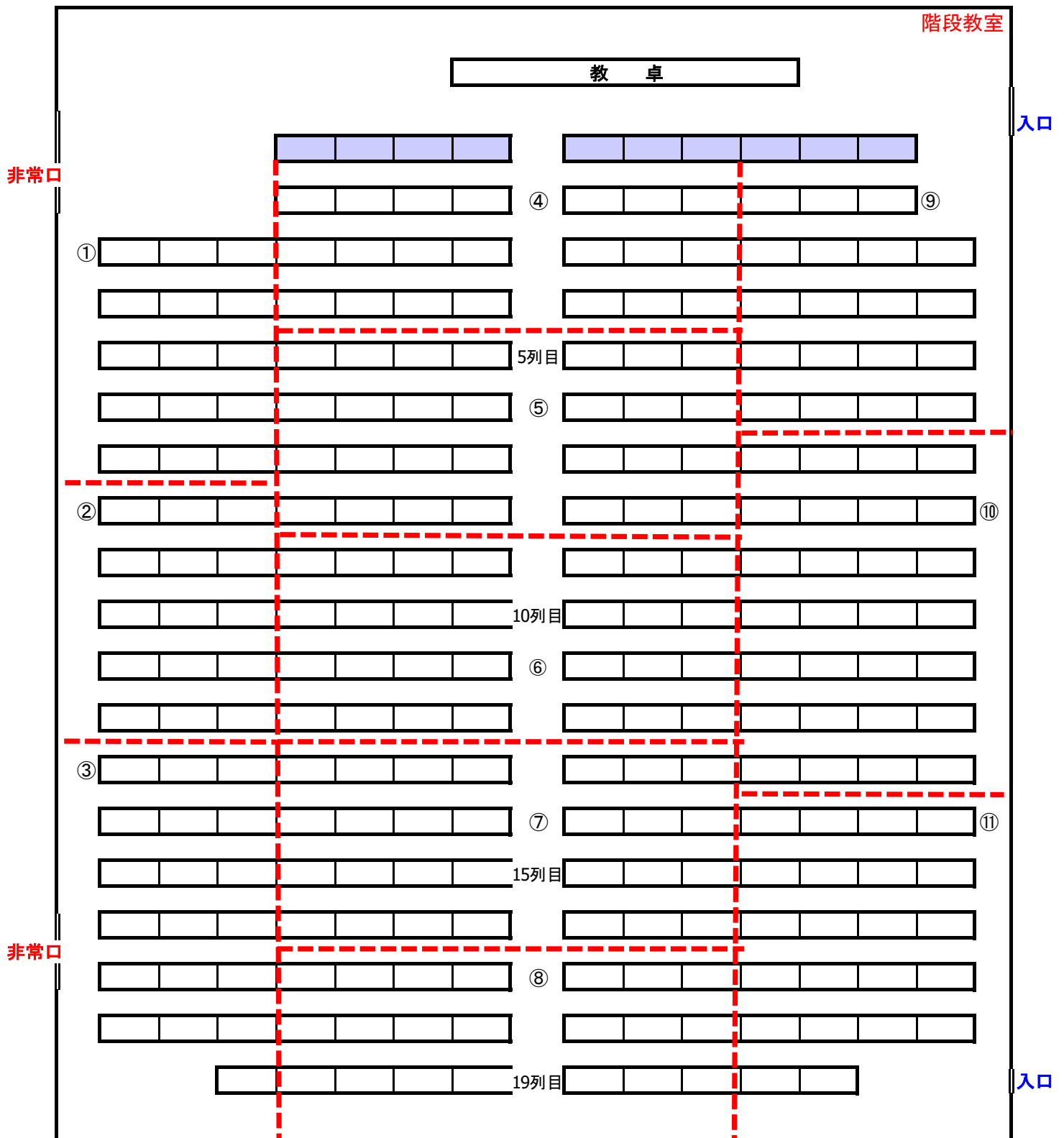
日程	2025/4/3(木)			
講習時間	11:00-12:00		14:00-15:00	
学部(学科)	物工	地球 建築	電気 情報	工化
部屋	4共11(1F)	4共30(3F)	4共11(1F)	4共30(3F)
インストラクター	江川 達郎	石見 拓	谷間 桃子	西山 知佳
サブインストラクター	谷間 桃子	島本 大也	江川 達郎	島本 大也
カメラ係	金丸 敏幸			
救急部救護	徳山裕貴			
救護室／控室	塩見 美抄		常田 裕子	
全体統括 トラブル対応	梁 楠 ・ 西山 知佳		梁 楠	
学生人数	235	265	220	235
誘導係 (各部屋1名)	伊藤 明 良	御手洗 彰	清川 加奈子	鳥井 美江
インストラクター補助 (WG)	田畑 阿美	東 克暁	山内 洋子	廣野 哲也
サポートスタッフ	① 榊 由里	① 岡本 雅子(国際)	① 木下 彩栄	① 若村 智子
	② 竹之内 沙弥香	② 杉山 雅人(国際)	② 宮下 美香	② PATAKY Todd
	③ 山下 正	③ ANAGNOSTOU Despoina	③ 塩見 美抄	③ ANAGNOSTOU Despoina
	④ 小島 諒介	④ ドーリング 景子	④ 野中 元裕	④ 大嶋 正裕(国際)
	⑤ 森西 可菜子	⑤ 岩井 直子	⑤ 上野 智弘	⑤ 高桑 徹也
	⑥ 初治 沙矢香	⑥ 藤井 瀬菜	⑥ 杉本 直三	⑥ 林 和寛
	⑦ PATAKY Todd	⑦ 笹山 哲	⑦ 藤井 康友	⑦ 兼重 美希
	⑧ 小方 智広	⑧ 森瀬 譲二	⑧ 錦織 桃子	⑧ 建内 宏重
	⑨ 義村 さや香	⑨ 林 和寛	⑨ 中川 直樹	⑨ 中村 光宏
	⑩ 川島 啓嗣	⑩ 入江 啓輔	⑩ 山口 智史	⑩ 松尾 英将
	⑪ 伊吹 謙太郎	⑪ 岩永 裕人	⑪ 小方 智広	⑪ 御手洗 彰
		⑫ 石津 浩一		
		⑬ 島 淳		
	※新任教員は斜体表示			

2025年度 新入生3000人救命救急講習サポートスタッフ配置

日程	2025/4/4(金)			
講習時間	11:00-12:00		14:00-15:00	
学部(学科)	医学部(人間) 薬学部	理学部	医学部(医)	農学部
部屋	4共11(1F)	4共30(3F)	4共11(1F)	4共30(3F)
インストラクター	島本 大也	石見 拓	谷間 桃子	島本 大也
サブインストラクター	谷間 桃子	金丸 敏幸	西山 知佳	金丸 敏幸
カメラ係				
救急部救護	山田博之			
救護室／控室	竹之内 沙弥香		鳥井 美江	
全体統括 トラブル対応	梁 楠 ・ 西山 知佳		梁 楠	
学生人数	180	311	107	300
誘導係 (各部屋1名)	兼重 美希	森西 可菜子	西中 瑤子	谷口 匡史
インストラクター補助 (WG)	金橋 徹	東 克暁	廣野 哲也	金橋 徹
サポートスタッフ	① 阿久澤 智恵子	① 三井 督子	① 任 和子	① 中川 直樹
	② 山下 正	② 西中 瑤子	② 宮下 美香	② 杉本 直三
	③ 岡本 雅子(国際)	③ 藤井 瀬菜	③ 嶋田 和貴	③ 藤井 瀬菜
	④ 佐藤 龍一(国際)	④ ドーリング 景子	④ 千葉 理恵	④ 古田 真里枝
	⑤ 清川 加奈子	⑤ 伊吹 謙太郎	⑤ 野中 元裕	⑤ 木下 彩栄
	⑥ 初治 沙矢香	⑥ 入江 啓介	⑥ 上野 智弘	⑥ 笹山 哲
	⑦ 森瀬 譲二	⑦ 谷口 匡史	⑦ 中尾 恵	⑦ 佐藤 龍一(国際)
	⑧ 塩見 美抄	⑧ 大滝 千文		⑧ 中村 光宏
	⑨ 岩井 直子	⑨ 石津 浩一		⑨ 林 美穂子
		⑩ 中川 直樹		⑩ 山口 智史
		⑪ 小島 諒介		⑪ PATAKY Todd
		⑫ 松尾 英将		⑫ 緑川 光春
		⑬ 義村 さや香		⑬ 稲富 宏之
		⑭ 山田 晶子		⑭ 川島 啓嗣
		⑮ 林 美穂子		⑮ 義村 さや香
		※新任教員は斜体表示		

4/2(水)11:00-12:00
4共11

予定学生人数 220人(教室最大定員 250人)



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、機の列番号を意味しています。

：可動機は使用しない。

4/2(火)11:00-12:00

4共30

予定学生人数 240人(教室最大定員 376人)

階段教室

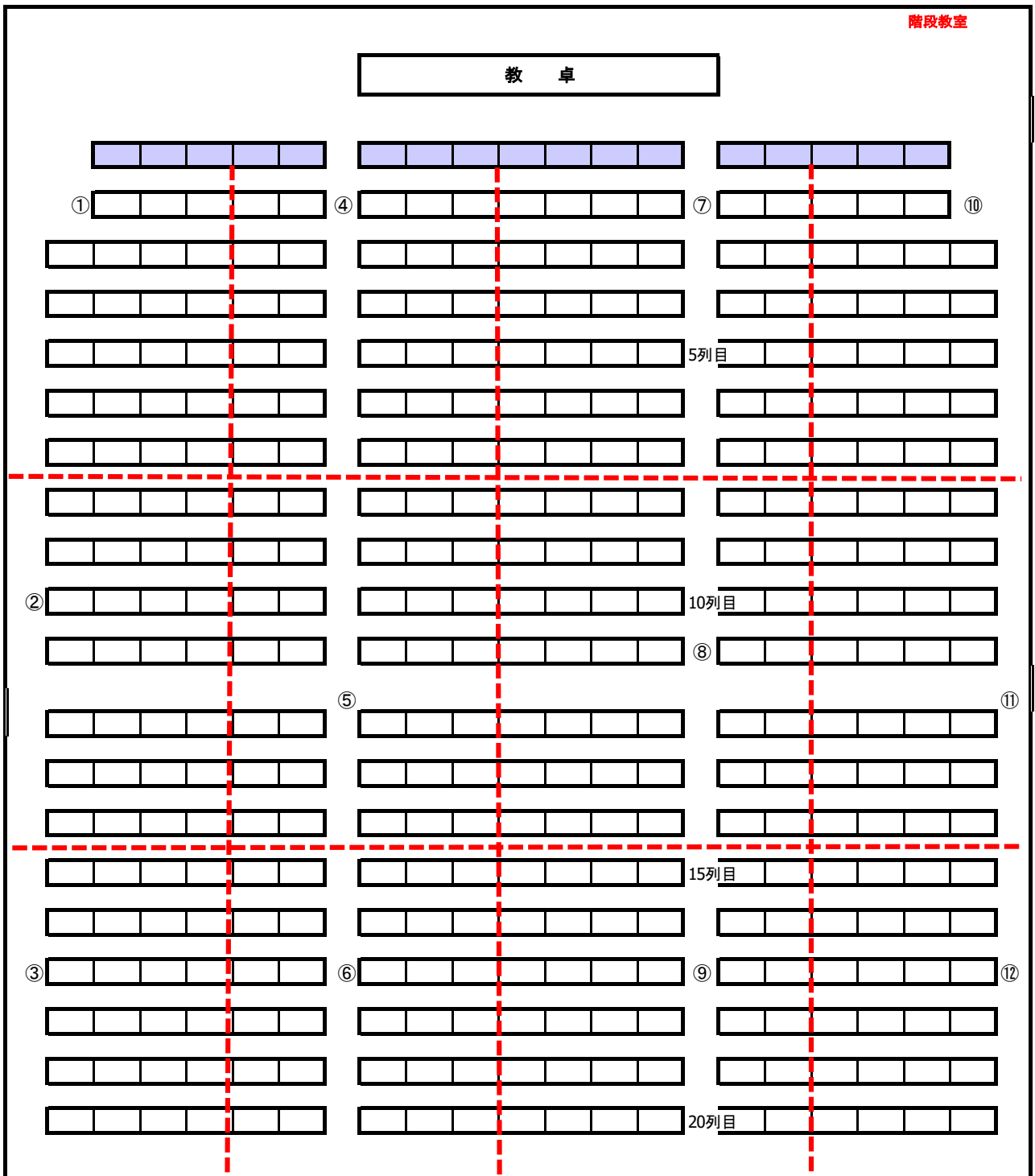
非常口

教 卓

入口

非常口

入口



非常口

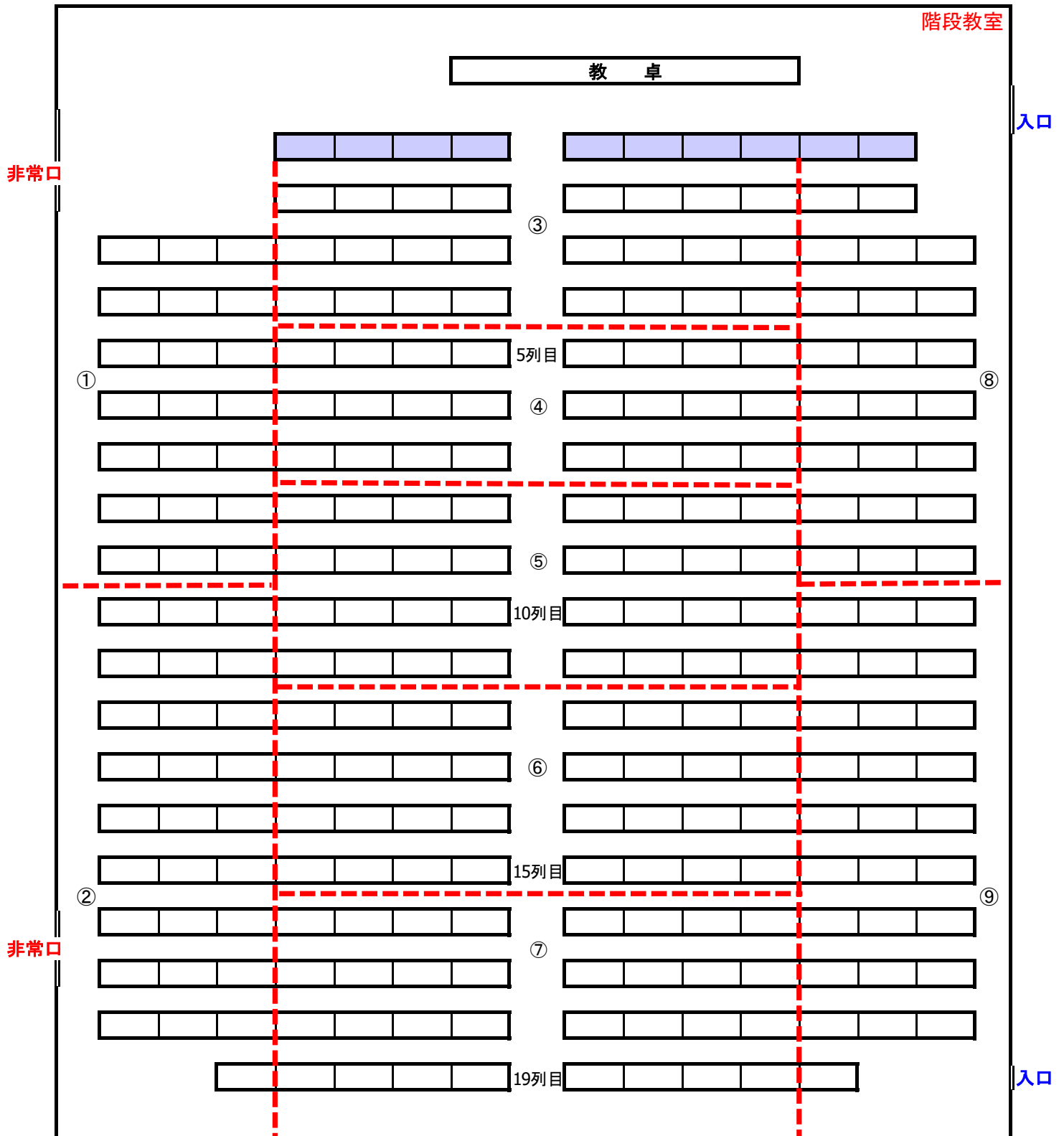
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。

数字は、機の列番号を意味しています。

□ : 可動機は使用しない。

4/2(火)14:00-15:00
4共11

予定学生人数 180人(教室最大定員 250人)



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。

数字は、机の列番号を意味しています。

□ : 可動機は使用しない。

4/2(火)14:00-15:00

4共30

予定学生人数 330人(教室最大定員 376人)

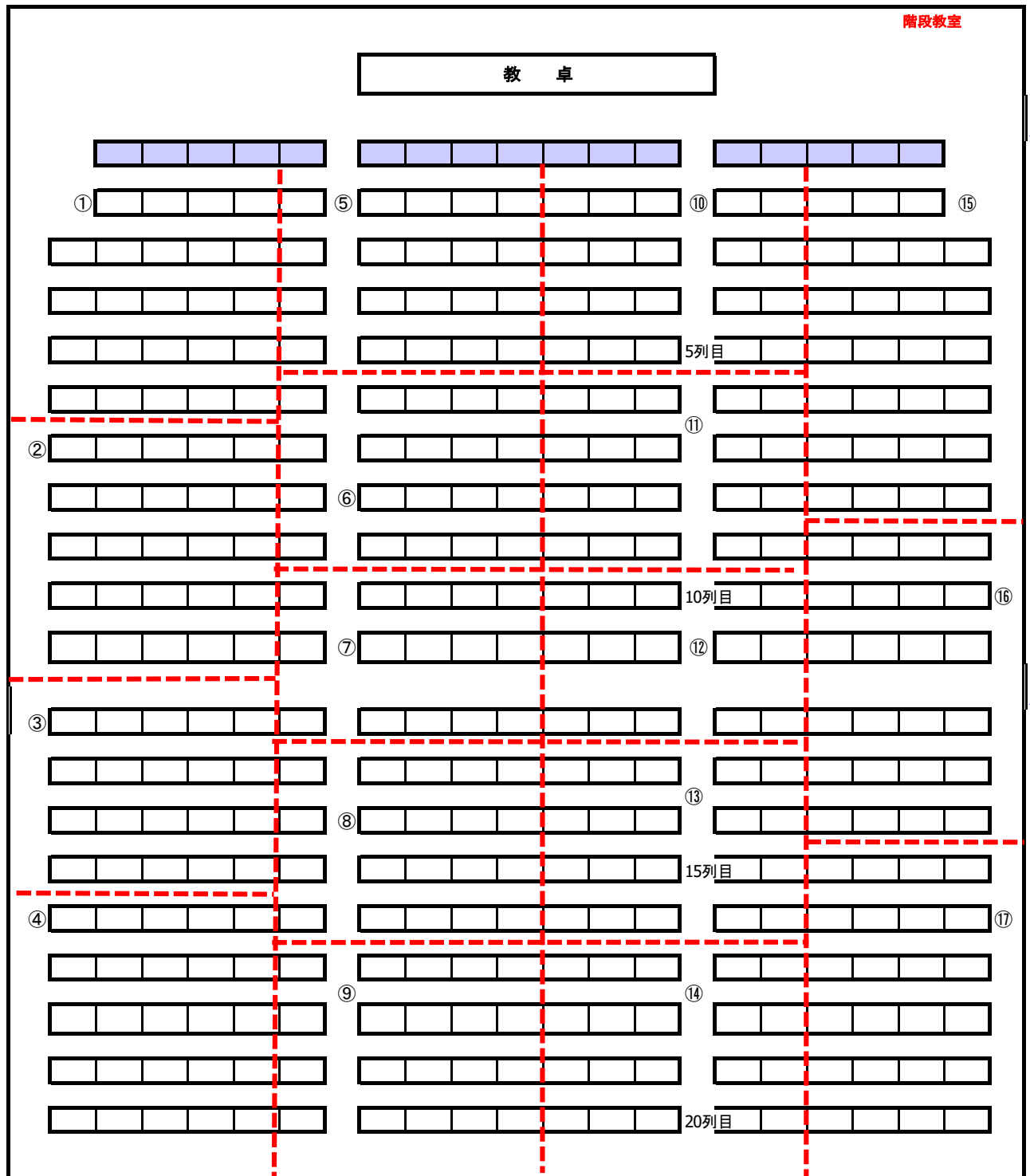
階段教室

非常口

入口

非常口

入口



非常口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を示しています。

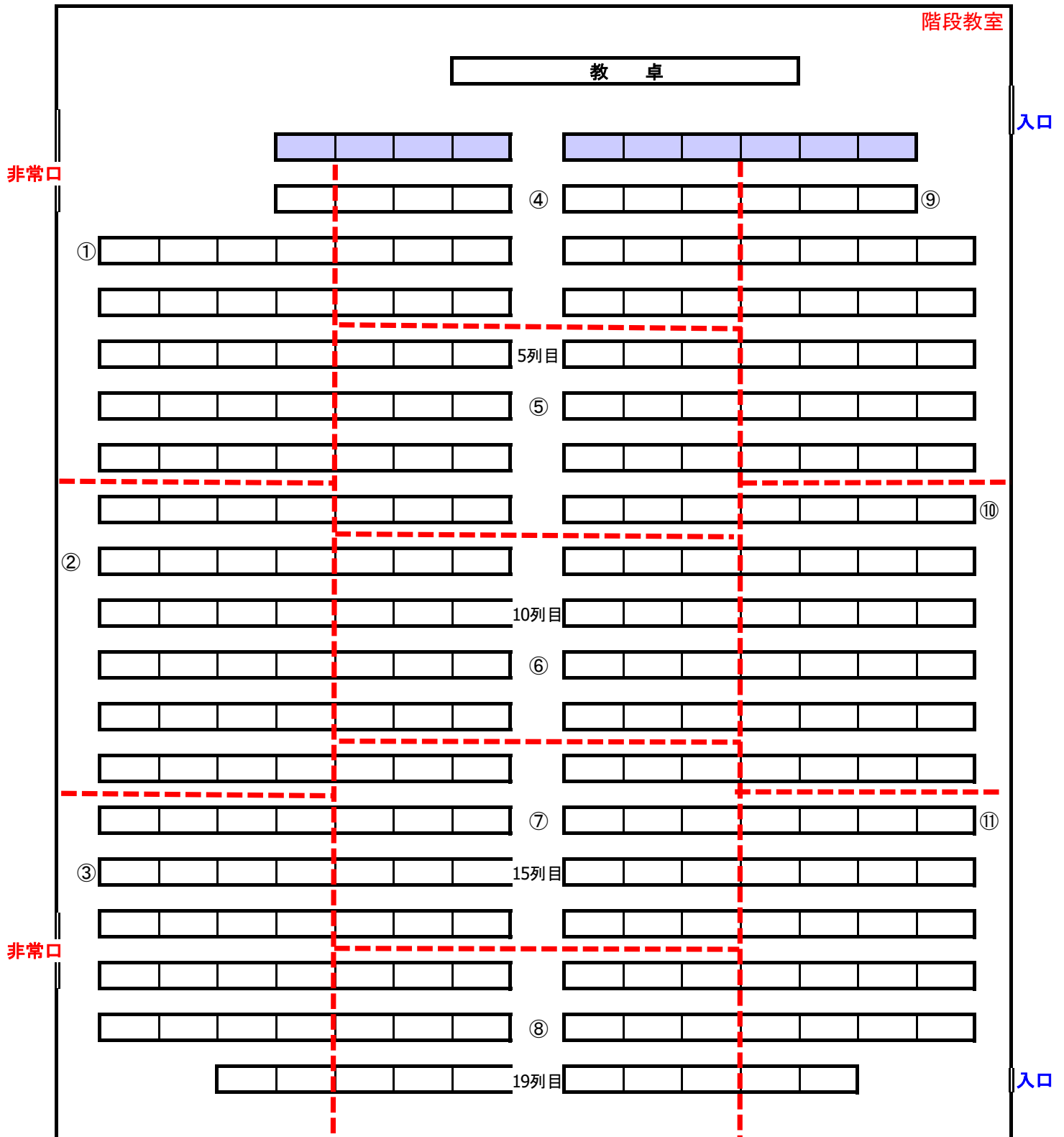
数字は、机の列番号を意味しています。

■: 可動機は使用しない。

4/3(水)11:00-12:00
4共11

予定学生人数 235人(教室最大定員 250人)

階段教室



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。

数字は、機の列番号を意味しています。

■ : 可動機は使用しない。

4/3(水)11:00-12:00

4共30

予定学生人数 265人(教室最大定員 376人)

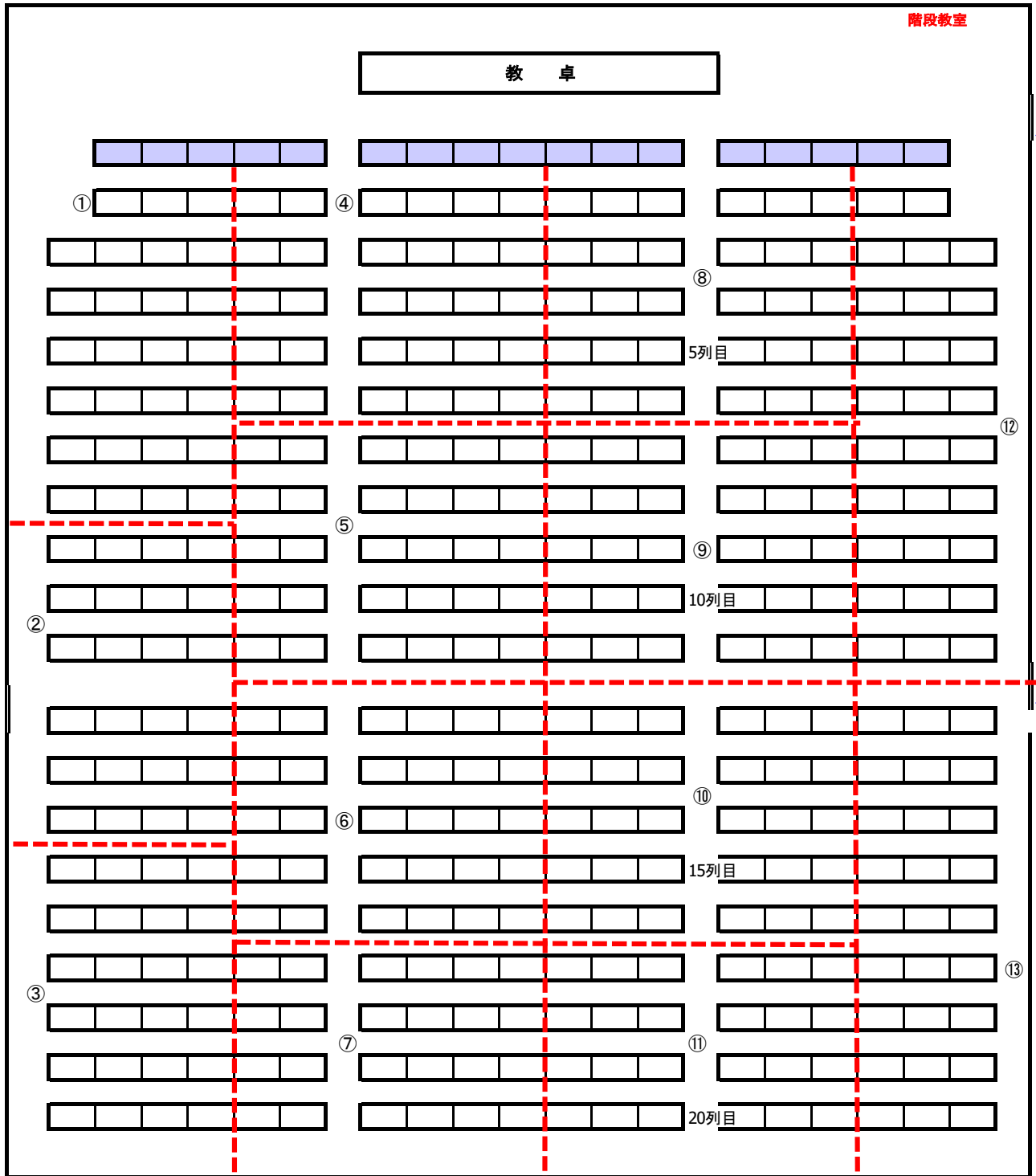
階段教室

非常口

入口

非常口

入口



非常口

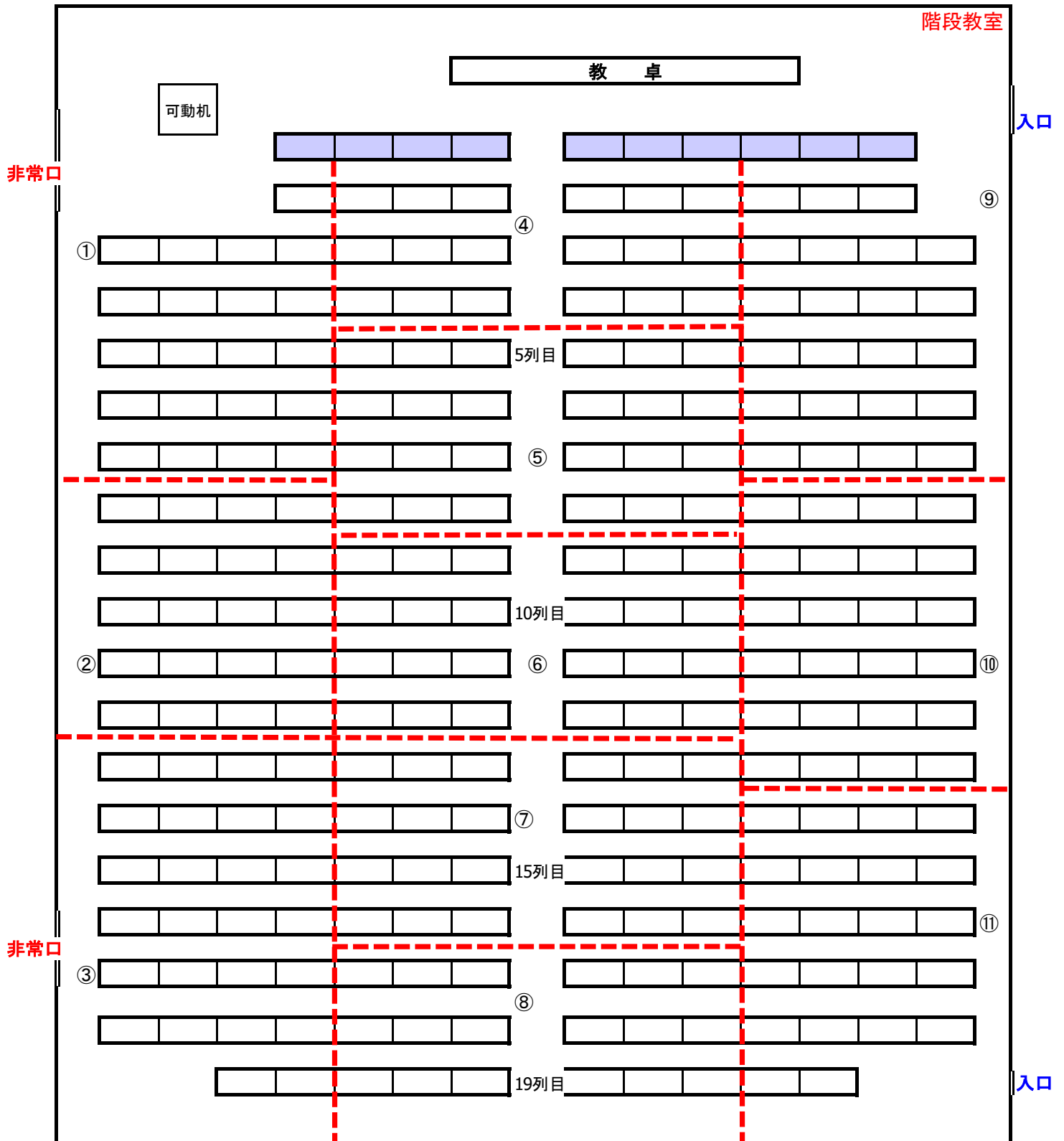
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。

数字は、机の列番号を意味しています。

□: 可動機は使用しない。

4/3(水)14:00-15:00
4共11

予定学生人数 220人(教室最大定員 250人)



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、機の列番号を意味しています。

■ : 可動機は使用しない。

4/3(水)14:00-15:00

4共30

予定学生人数 235人(教室最大定員 376人)

階段教室

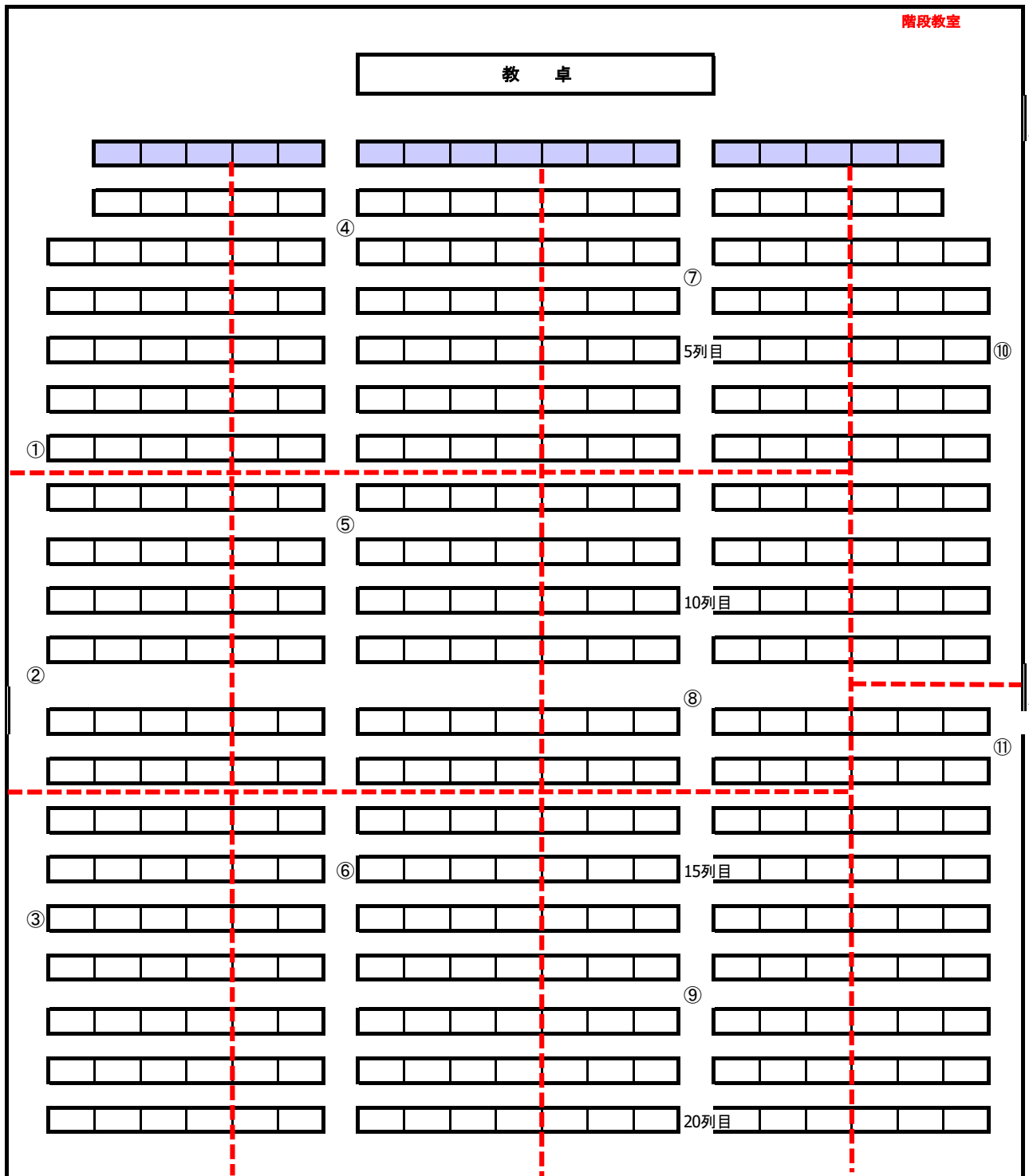
非常口

入口

教 卓

非常口

入口



非常口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。

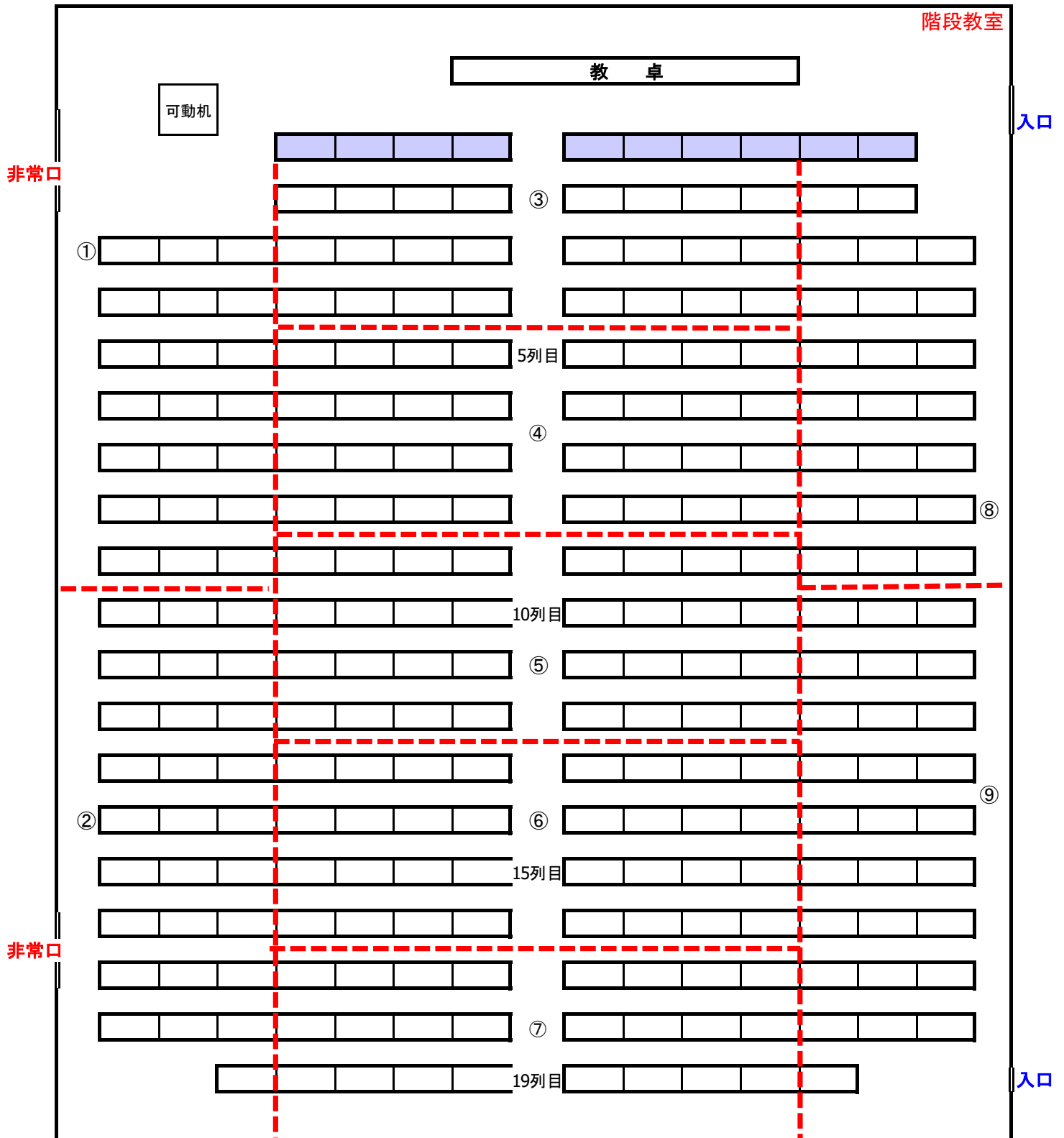
数字は、機の列番号を意味しています。

■: 可動機は使用しない。

4/4(木)11:00-12:00
4共11

予定学生人数 180人(教室最大定員 250人)

階段教室



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。

数字は、機の列番号を意味しています。

■ : 可動機は使用しない。

4/4(木)11:00-12:00

4共30

予定学生人数 311人(教室最大定員 376人)

階段教室

非常口

入口

非常口

入口

非常口

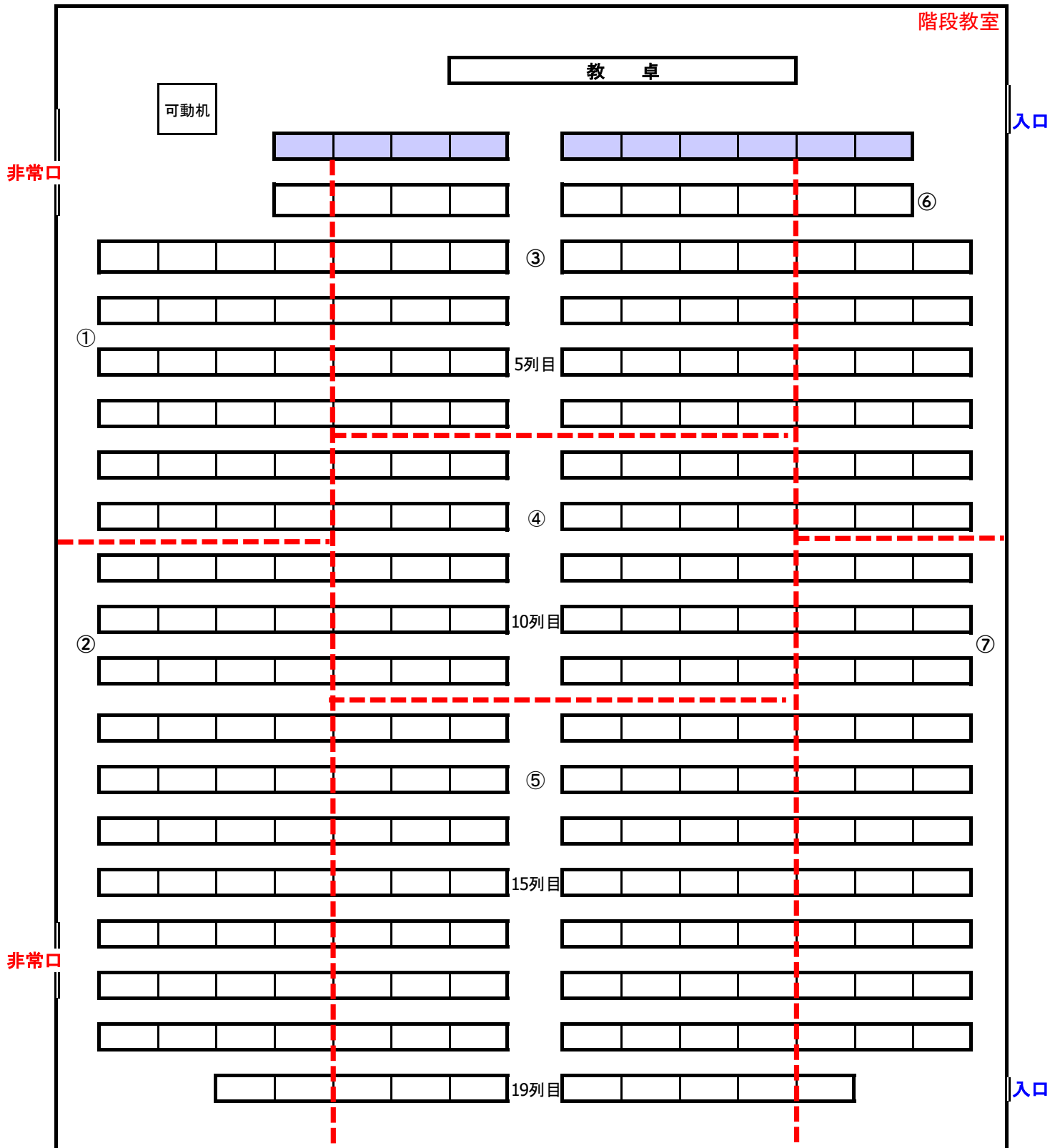
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。

数字は、機の列番号を意味しています。

□: 可動機は使用しない。

4/4(木)14:00-15:00
4共11

予定学生人数 107人(教室最大定員 250人)



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。

数字は、機の列番号を意味しています。

：可動機は使用しない。

4/4(木)14:00-15:00

4共30

予定学生人数 300人(教室最大定員 376人)

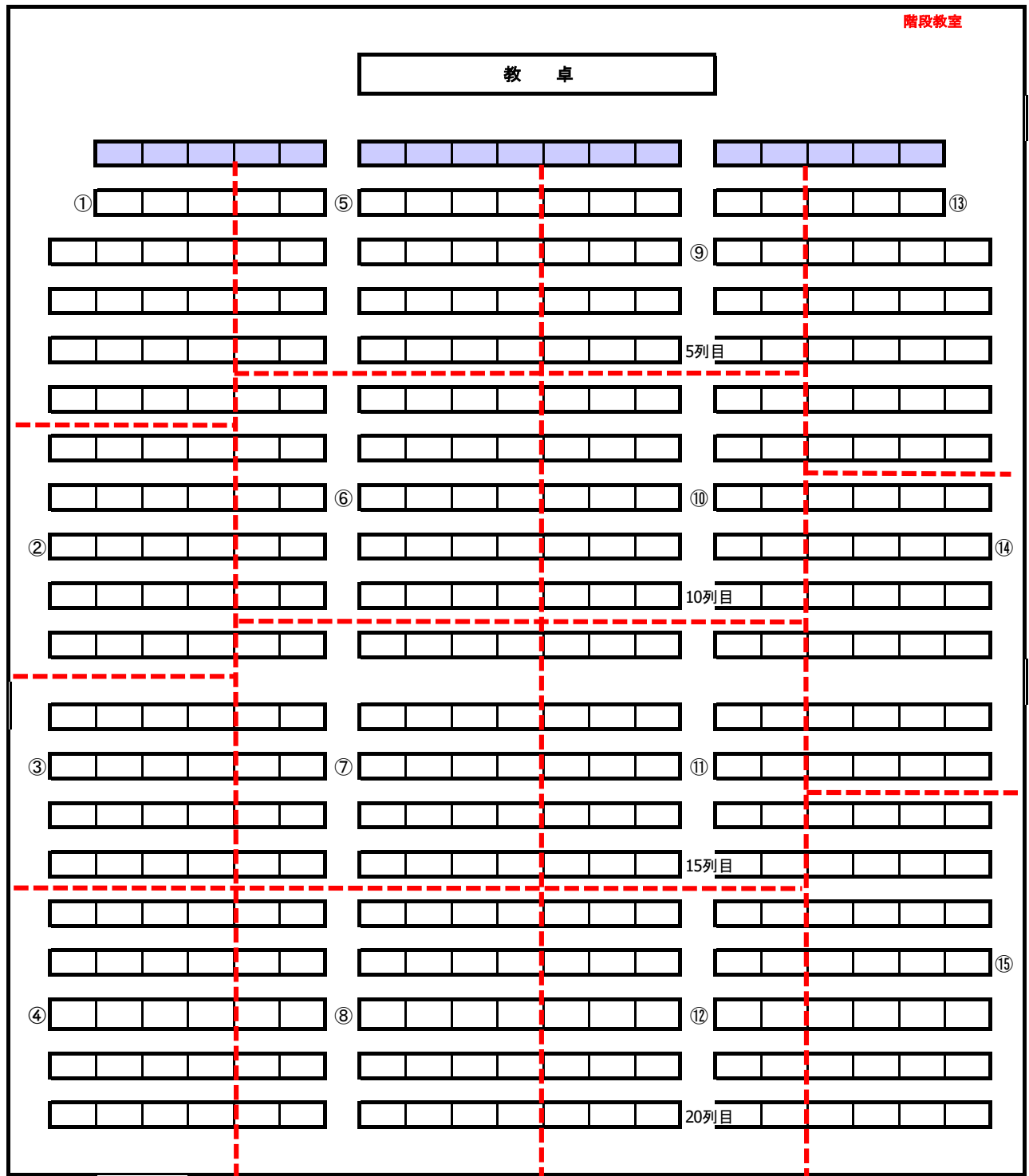
階段教室

非常口

入口

非常口

入口



非常口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。

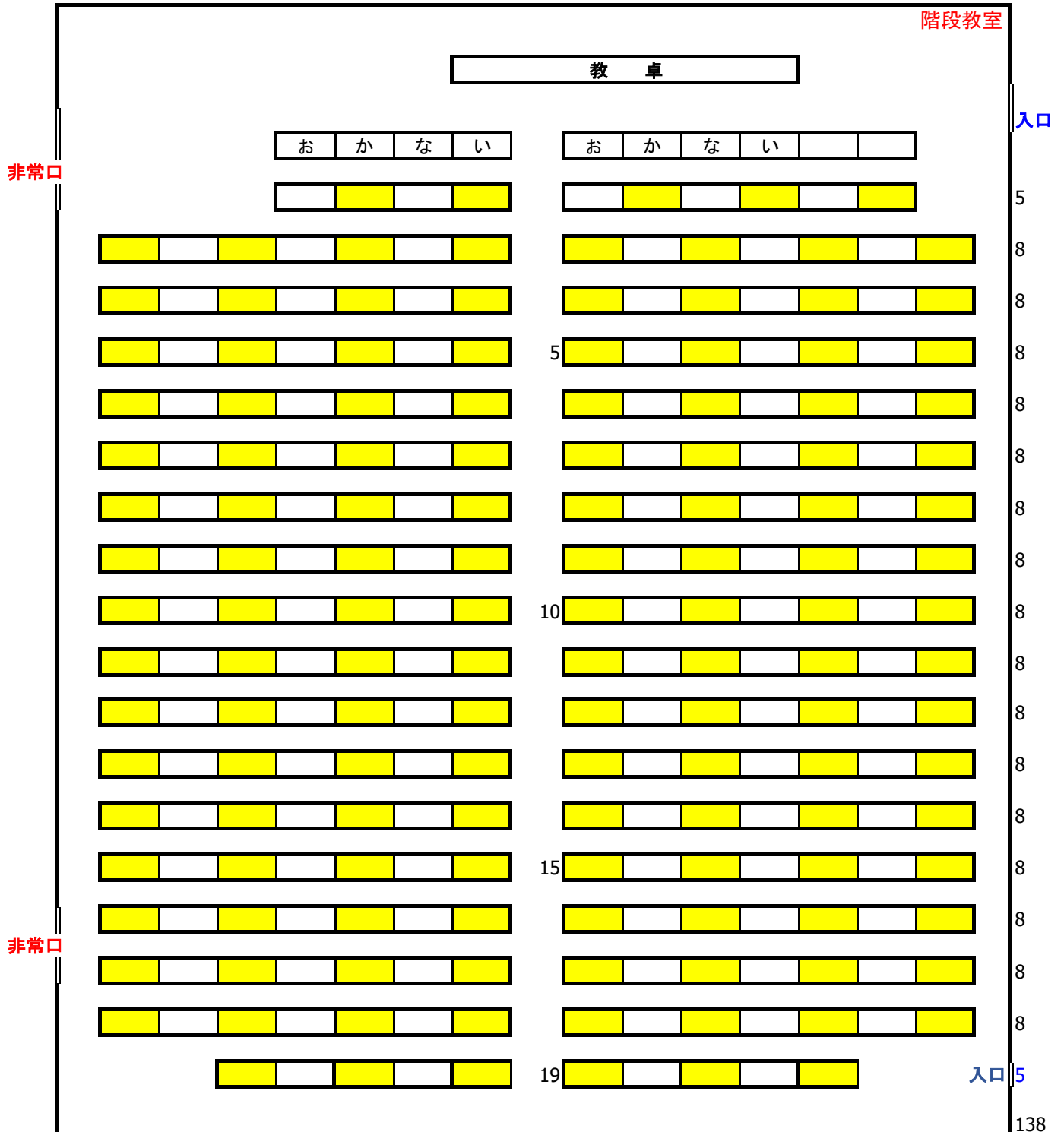
数字は、機の列番号を意味しています。

■: 可動機は使用しない。

あっぱくん配置 4共11(定員254人)

予定学生数 最大235人
あっぱくん配置数 138個(7箱運搬)

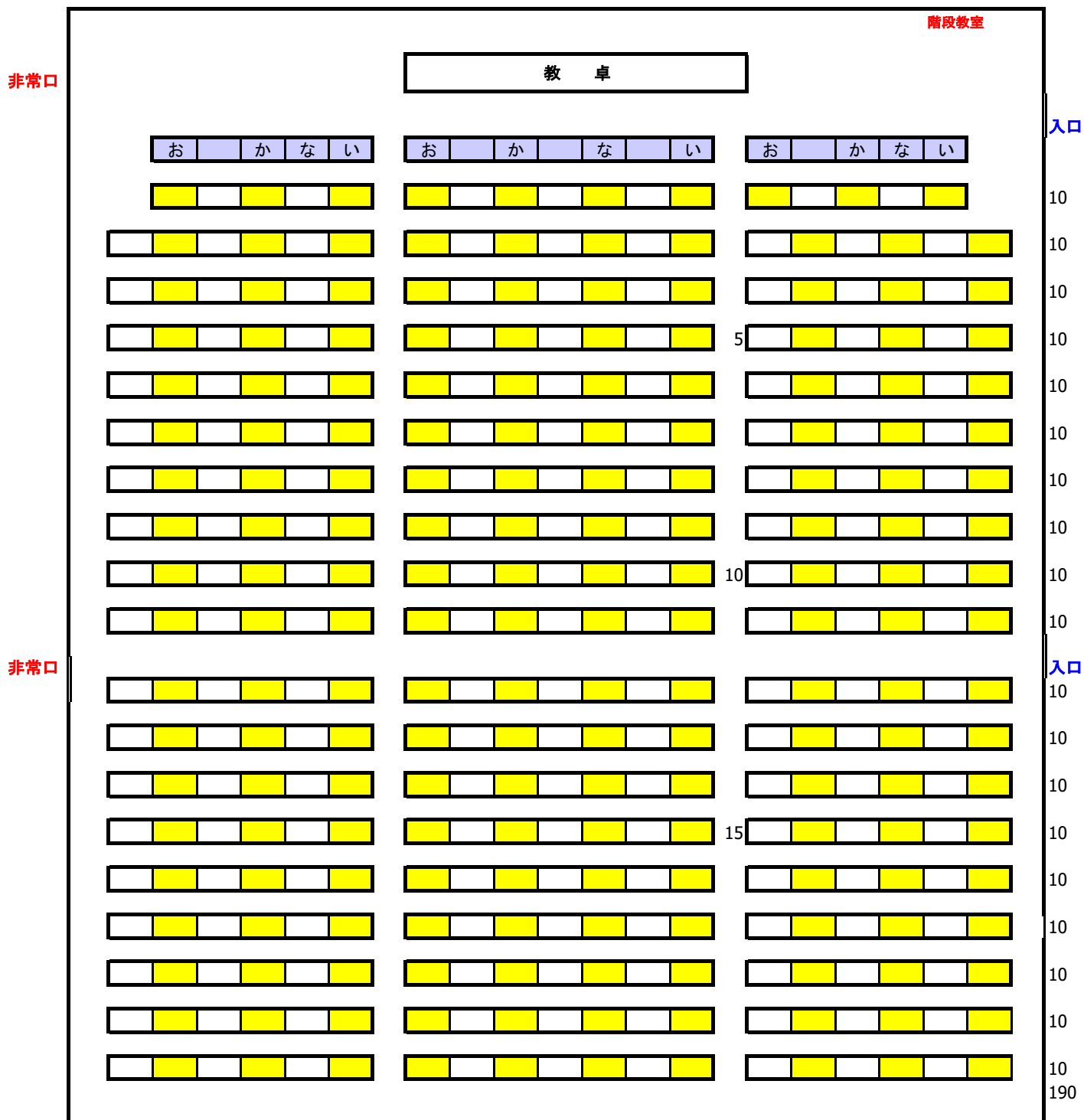
- 黄色でマークしている机の上に、あっぱくんを1個ずつ置いていってください。
- 先頭列は可動式の机のため、安全面を考慮して配置しないでください。



あっぱくん配置
4共30(定員376人)

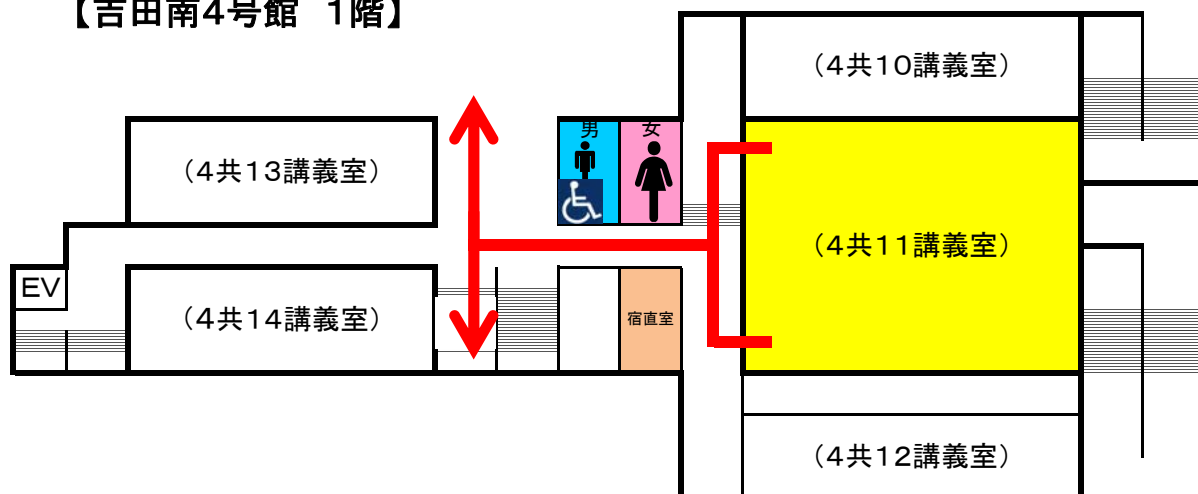
予定学生数 最大330人
あっぱくん配置数 190個(10箱運搬)

- 黄色でマークしている机の上に、あっぱくんを1個ずつ置いていってください。
- 先頭列は可動式の机のため、安全面を考慮して配置しないでください。

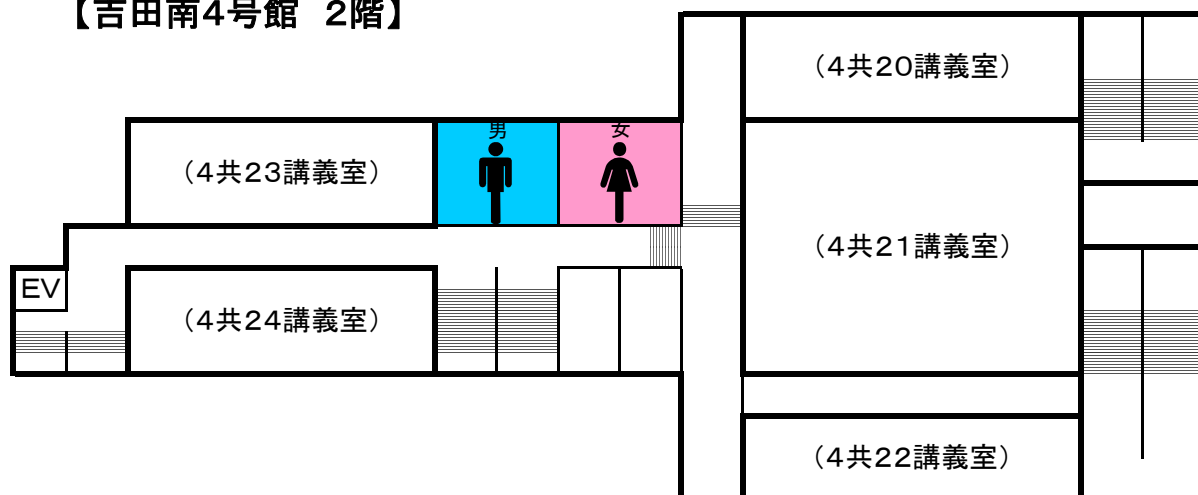


吉田南4号館 避難経路図

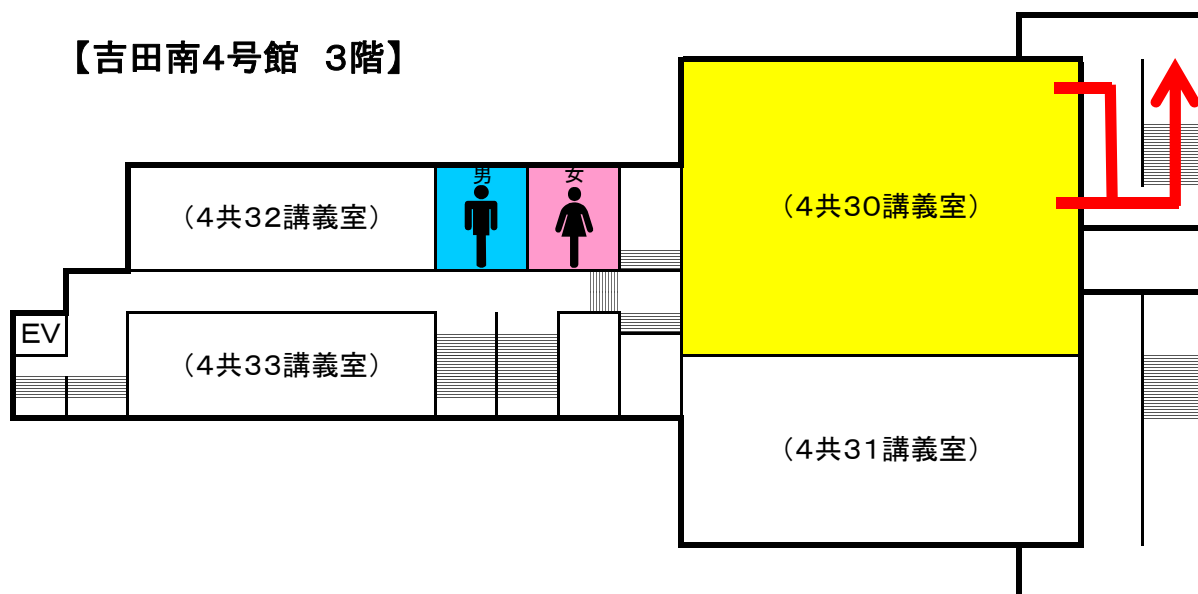
【吉田南4号館 1階】



【吉田南4号館 2階】



【吉田南4号館 3階】



2025 年度新入生 3000 名への救命救急講習の計画立案、運営、サポートスタッフ手順書作成は、救命救急講習 Project TEAM メンバーおよび、人間健康科学系専攻の教員によって行いました。

【救命救急講習(あっぱくん)Project TEAM メンバー】

チームリーダー	石見 拓 (医学研究科・予防医療学分野・教授)
サブリーダー	梁 楠 (医学研究科・人間健康科学系専攻・教授)
チームメンバー	大鶴 繁 (医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授)
チームメンバー	金丸敏幸 (国際高等教育院・准教授)
チームメンバー	江川達郎 (人間・環境学研究科 認知・行動・健康科学講座・准教授)
チームメンバー	島本大也 (医学研究科・予防医療学分野・特定講師)
チームメンバー	谷間桃子 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
コーディネーター	西山知佳 (医学研究科・人間健康科学系専攻・准教授)

【救命救急講習(あっぱくん)WG メンバー】

田畑阿美 (医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
細川陸也 (医学研究科・人間健康科学系専攻・講師)
金橋 徹 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
廣野哲也 (医学研究科・人間健康科学系専攻・特定助教)
東 克暁 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)
山内洋子 (医学研究科・人間健康科学系専攻・助教)